

長	野	県		
埋	蔵	文	化	財
七	ン	タ	一	
年	報		33	

2016

一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

長野県埋蔵文化財センター年報33

2016

一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター



栄村 ひんご遺跡 敷石住居跡（堀之内1式期）



長野市 小島・柳原遺跡群 塔鏡形合子蓋



長野市 塩崎遺跡群 石製分銅



長野市 石川条里遺跡 1区 中世居住遺構



朝日村 山鳥場遺跡 縄文時代中期 竪穴住居跡



飯田市 川原遺跡 調査区遠景



長野市 浅川扇状地遺跡群 本村南沖遺跡 3号住居跡 (SB03) 出土遺物



佐久市 尾垂古墳 刀装具

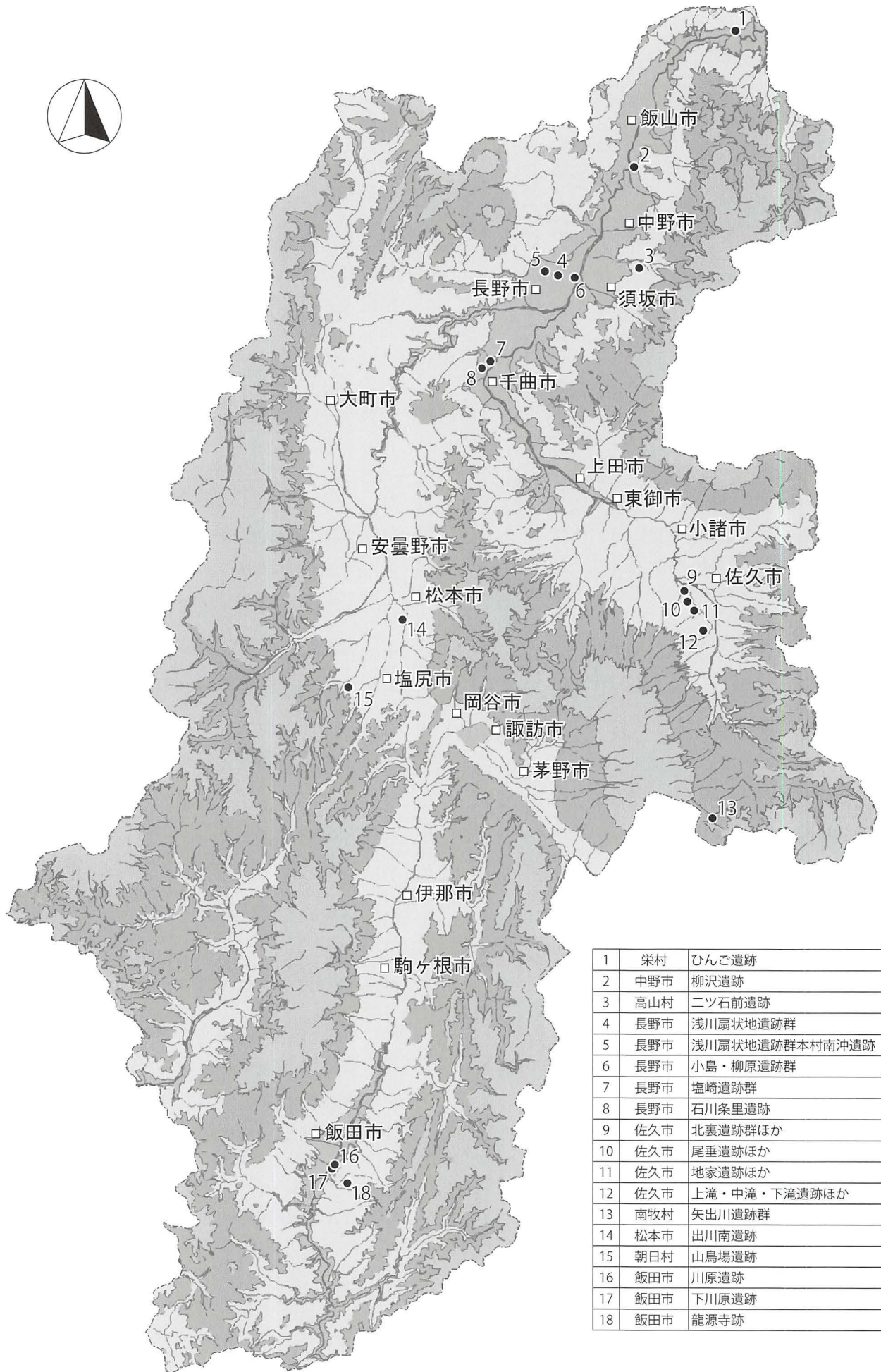
目 次

口絵写真

- ・ 栄 村 ひんご遺跡
敷石住居跡（堀之内1式期）
- ・ 長野市 小島・柳原遺跡群 塔鏡形合子蓋
- ・ 長野市 塩崎遺跡群 石製分銅
- ・ 長野市 石川条里遺跡1区 中世居住遺構
- ・ 朝日村 山鳥場遺跡
縄文時代中期 竪穴住居跡
- ・ 飯田市 川原遺跡 調査区遠景
- ・ 長野市 浅川扇状地遺跡群 本村南沖遺跡
3号住居跡（SB03）出土遺物
- ・ 佐久市 尾垂古墳 刀装具

目 次

I 2016年度の事業概要	1	IV 普及公開活動の概要	35
II 発掘作業の概要	2	(1) 国庫補助事業	36
(1) ひんご遺跡	3	(2) 文化財活用活性化実行委員会事業	38
(2) 柳沢遺跡	6	(3) 現地説明会（含遺跡公開）	39
(3) ニツ石前遺跡	7	(4) 合庁ロビー展等	40
(4) 小島・柳原遺跡群	8	V 有識者による鑑定・指導	42
(5) 塩崎遺跡群	11	VI 会議・研修への参加	42
(6) 石川条里遺跡	13	(1) 会議・委員会等	42
(7) 出川南遺跡	15	(2) 研修会・資料調査等	44
(8) 山鳥場遺跡	17	VII 関係機関等への協力等	45
(9) 川原遺跡	20	(1) 事業関係機関等への協力	45
(10) 下川原遺跡	21	(2) 学校関係への協力	45
III 整理等作業の概要	22	(3) 講師等の派遣・技術指導	46
(1) ひんご遺跡	23	(4) 資料貸与・閲覧等	47
(2) 塩崎遺跡群	24	VIII 組織・事業の概要	48
(3) 浅川扇状地遺跡群	25	(1) 組織	48
(4) 浅川扇状地遺跡群 本村南沖遺跡	26	(2) 職員	48
(5) 佐久市地家遺跡ほか	28	(3) 事業	49
(6) 矢出川第Ⅷ遺跡	32		
(7) 龍源寺跡	33		



1	栄村	ひんご遺跡
2	中野市	柳沢遺跡
3	高山村	二ツ石前遺跡
4	長野市	浅川扇状地遺跡群
5	長野市	浅川扇状地遺跡群本村南沖遺跡
6	長野市	小島・柳原遺跡群
7	長野市	塩崎遺跡群
8	長野市	石川条里遺跡
9	佐久市	北裏遺跡群ほか
10	佐久市	尾垂遺跡ほか
11	佐久市	地家遺跡ほか
12	佐久市	上滝・中滝・下滝遺跡ほか
13	南牧村	矢出川遺跡群
14	松本市	出川南遺跡
15	朝日村	山鳥場遺跡
16	飯田市	川原遺跡
17	飯田市	下川原遺跡
18	飯田市	龍源寺跡

図1 平成28年度調査・整理対象遺跡

I 2016年度の事業概要

本年度は、国または県の公共開発事業にかかる発掘調査事業13件および研修等事業1件を受託し、自主事業として6遺跡で都合9回の遺跡現地説明会を実施した。

1 発掘調査事業

国土交通省から4億6,292万円、県から2億46万円、計6億6,338万円余りの受託費により、10遺跡の発掘作業と32遺跡の整理等作業を実施した。

(1) 発掘作業

栄村ひんご遺跡（県道建設事業）では、昨年度に続き千曲川に南面する縄文中期から後期の集落縁辺を調査した。住居跡は敷石住居跡を含めて総計28軒となり、木柱の根固めと思われる礫を埋置した柱穴群も多数検出した。中期の貯蔵穴やその周辺からは、火焰型・王冠型土器など新潟県を中心に分布する土器がまとまって出土している。遺物包含層にはクリなど種実の形状を留めた炭化物が広がっている。

中野市柳沢遺跡（県道建設事業）は、平成19年に銅戈・銅鐸が発見された千曲川築堤に並走する県道予定地の滝の沢川北側を調査し、弥生中期の土坑などを検出した。

高山村二ツ石前遺跡（中山間地整備事業）は、遺跡の中央を東西に横断する農道部分の調査を行った。扇状地の扇央部分という立地条件が災いし遺構・遺物はほとんどなく、埋蔵文化財包蔵地把握の難しさを知るところとなった。

長野市小島・柳原遺跡群（国道改築事業）は、遺跡範囲の南端に位置し、平安前期の竪穴住居跡、中世以降の溝跡、中世から近世の墓跡を検出した。竪穴住居跡の埋土中から出土した青銅製の塔鏡形合子は全国に24点しか知られていない希少品で、今後、資料の分析を進めながら、本遺跡から出土した意味を視野を広げて解明しなければならない。

4年目となる長野市塩崎遺跡群（国道改築事業）では、弥生後期・古墳前期・平安期の各集落の西縁を画する溝がみつき、集落の西端を捉えることができた。また、平安期の竪穴住居跡からは、本遺跡の性格を解明するための手掛かりとなる三

足盤や分銅が出土した。

西隣の石川条里遺跡（国道改築事業）では、予想どおり弥生～平安期は塩崎遺跡群の後背地の生産域として位置づけることができた。一方、鎌倉後期には微高地上に掘立柱建物群を主体とする集落域が形成されていた。1棟は3×7間およそ22坪と大形で、ほぼ総柱となる柱穴に礎板石をもつ特徴的な建物跡である。

第28次調査となる松本市出川南遺跡（都市計画道路改築事業）では溝跡2条に並行するピット列を検出した。土地を区画する施設をうかがわせるが、全体像をとらえることはできなかった。

朝日村山鳥場遺跡（県道建設事業）は、縄文中期を中心とする集落の一画を確認した。唐草文系土器を主体とする竪穴住居跡は規格性が高く、鎖川対岸にある熊久保遺跡と対比するうえで格好の資料となる。

天竜川に面した飯田市川原遺跡（天竜川築堤護岸事業）でも縄文中期から後期を主体とする竪穴住居跡を検出した。川べりで集落を営んだ訳を、出土遺物の分析から解明する必要があるようだ。

(2) 整理等作業

佐久市地家遺跡ほか中部横断自動車道関連の26遺跡、長野市浅川扇状地遺跡群（都市計画道路建設事業）等で整理作業を行い、長野市浅川扇状地遺跡群本村南沖遺跡（新県立大学施設整備事業）、南牧村矢出川遺跡群第Ⅷ遺跡（県営畑地帯総合土地改良事業）ほか2事業3遺跡の報告書を刊行した。

2 研修、普及公開事業

県教育委員会から76.9万円を受託し、研修および普及公開事業を実施した。

研修事業は、奈良文化財研究所の専門研修「人骨・動物骨調査課程」ほか4講座を受講した。

普及公開事業は、文化庁の文化財補助金（「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」）を活用して、展示会、体験学習会、講演会・シンポジウム、出前授業等を実施し、総計3,697名が参加した。また、広報資料や出前授業用教材を作成した。（平林 彰）

II 発掘作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	面積㎡	調査期間	時代・内容	主な遺物
ひんご	栄村	県道 箕作飯山線	517	6月1日～10月5日	縄文：敷石住居跡、竪穴建物跡、貯蔵穴、土坑、配石墓、土器集中、炭化物・焼土集中	縄文：土器（深鉢、浅鉢、注口土器、蓋形土器、ミニチュア土器ほか）、土偶、石器（石鏃、スクレイパー、石錐、打製・磨製石斧、石棒、石皿、磨石、凹石、砥石、石核、剥片、軽石製品、垂飾）、炭化種実（クリほか）、骨、焼粘土塊
やなぎさわ 柳沢	中野市	県道 中野飯山線	900 5,220 (確認)	10月3日～11月30日	弥生：土坑 近世以降：掘立柱建物跡 不明：溝跡	縄文・弥生・古代：土器、土師器、須恵器、灰釉陶器 中世：内耳土器
ふたつしまえ 二ツ石前	高山村	県営中山間 総合整備	2,000	4月12日～6月7日	なし	縄文：石器（削器）
こじま やなぎはら 小島・柳原 いせきぐん 遺跡群	長野市	長野東 バイパス	3,000	6月1日～1月6日	平安：竪穴住居跡、遺物集中 平安～近世：土坑、焼土跡 中近世：墓跡 中世以降：溝跡	平安～中近世：土器、須恵器、土師器、陶磁器、内耳土器 中世：石製品（五輪塔ほか） 平安：金属製品（塔鏡形合子、銅碗） 中近世：人骨、獣骨 近世：金属製品（煙管、銭貨） 中世以降：木製品（杭）
しおぎき いせきぐん 塩崎遺跡群	長野市	坂城更埴 バイパス	4,000	4月11日～1月16日	弥生：掘立柱建物跡、墓跡 弥生・平安：竪穴住居跡 弥生～中世：溝跡、土坑、井戸跡	縄文～中世：土器、陶磁器 弥生：石器（打製・磨製石鏃、石槌、管玉） 平安：石製品（分銅） 中世：石製品（石臼） 弥生～近世：金属製品（棒状鉄製品、煙管） 中世：木製品（曲物） 弥生～中世：ガラス小玉、土玉、骨
いしかわじょうり 石川条里				4月5日～1月16日	弥生～近世：溝跡 平安：畔跡 中世：掘立柱建物跡 中近世：井戸跡	弥生～中世：土器、陶磁器、土錘 弥生・古墳：石器（磨製石斧、勾玉、管玉） 中近世：石器（砥石、石臼、凹石） 中世：金属製品（銭貨）、曲物
いでがわみなみ 出川南	松本市	(都)出川 双葉線	440	4月5日～6月30日	古代～中世：土坑、溝跡、ピット 中世：小溝跡、畝跡	古墳・古代：土師器、須恵器、石皿、磨石
やまとりぼ 山鳥場	朝日村	県道御馬越 塩尻(停)線	1,400	7月1日～11月30日	縄文：竪穴住居跡、土坑、自然流路	縄文：土器（深鉢、浅鉢、注口土器、台付鉢ほか）、土偶（胴、足）、石器（石鏃、打製・磨製石斧、砥石、石皿、磨石、凹石、剥片ほか）、骨片
かわら 川原	飯田市	天竜川 左岸築堤	1,705	8月24日～12月22日	縄文：竪穴住居跡、土坑、集石 近世：土坑	縄文・中近世：土器、陶磁器 縄文：石器（石錘、打製・磨製石斧、石皿、削器、石鏃） 弥生：石器（磨製石鏃）
しもがわら 下川原					4,193	近世以降：水田跡

(1) ひんご遺跡

(県道箕作飯山線関連)

所在地および交通案内：JR 飯山線平滝駅より国道 117 号線を西へ約 300m 先左折。フランセーズ悠さかえ前。

遺跡の立地環境：千曲川左岸低段丘南端の標高約 285m 地点に位置する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.6.1 ~ 10.5	517㎡	綿田弘実 谷 和隆

検出遺構

遺構の種類	数	時期
敷石住居跡	2	縄文後期
竪穴住居跡	6	縄文後期
貯蔵穴	1	縄文中期
土 坑	241	縄文中期～後期
配石墓	1	縄文後期
土器集中	24	縄文中期～後期
炭化物・焼土集中	29	縄文中期～後期



図3 竪穴住居跡 SB28 (南から)

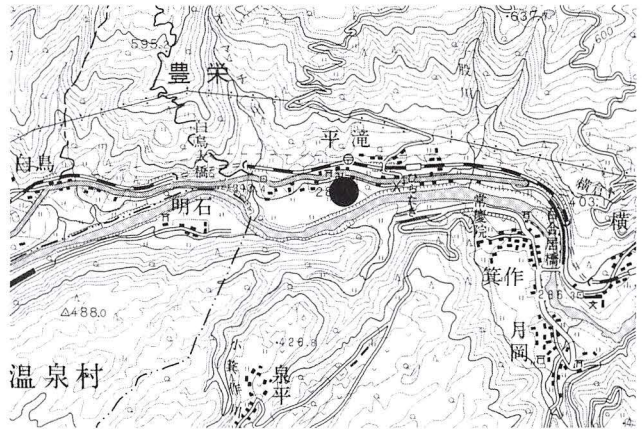


図2 ひんご遺跡の位置 (1 : 50,000 苗場山)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・土製品	縄文早期～後期 (深鉢形土器、浅鉢形土器、注口土器、蓋形土器、ミニチュア土器ほか)、土偶
石器・石製品	石鏃、スクレイパー、石錐、打製石斧、磨製石斧、石皿、磨石、凹石、砥石、石核、剥片、石棒、軽石製品、垂飾
その他	炭化種実 (クリほか)、骨、焼粘土塊

調査の概要

平成 27 年度発掘した東側の調査区 (1,730㎡) に続く、西側約 3 分の 1 を発掘し 2 か年の調査を終了した。遺跡の立地が、千曲川と同じ方向に長い、河岸段丘上の微高地にあたるため、縄文集落の長軸方向を延長約 110m にわたって、東西に貫く発掘調査をしたことになる。

層序は 27 年度と変わらず、上層から I 層：耕作土、II 層：砂層、III 層：粘土層、IV 層：砂礫層、V 層：腐植土層 (遺物包含層)、VI 層：砂層 (地山) である。V 層は調査区の北半部で厚さ約 30cm、千曲川寄りの南半部では 50cm 以上を測る。

V 層の下面で遺構を検出し調査を行った。遺構数は 27 年度調査との合計で、敷石住居跡 5、竪穴住居跡 23、土坑 410、配石遺構 5、土器集中 35、炭化物・焼土集中 34、粘土採掘坑・貯蔵穴・配石墓・溝跡各 1 となる。遺物は今年度約 120 箱に上り、面積当たりの比較では密度が高いといえる。

出土した縄文土器は、早期の押型文土器・絡条体圧痕文土器から後期加曽利 B1 式にわたり、後期前半、特に堀之内 2 式期に属す土器が最も多い。

これに次ぐのが火焰型土器に代表される中期中

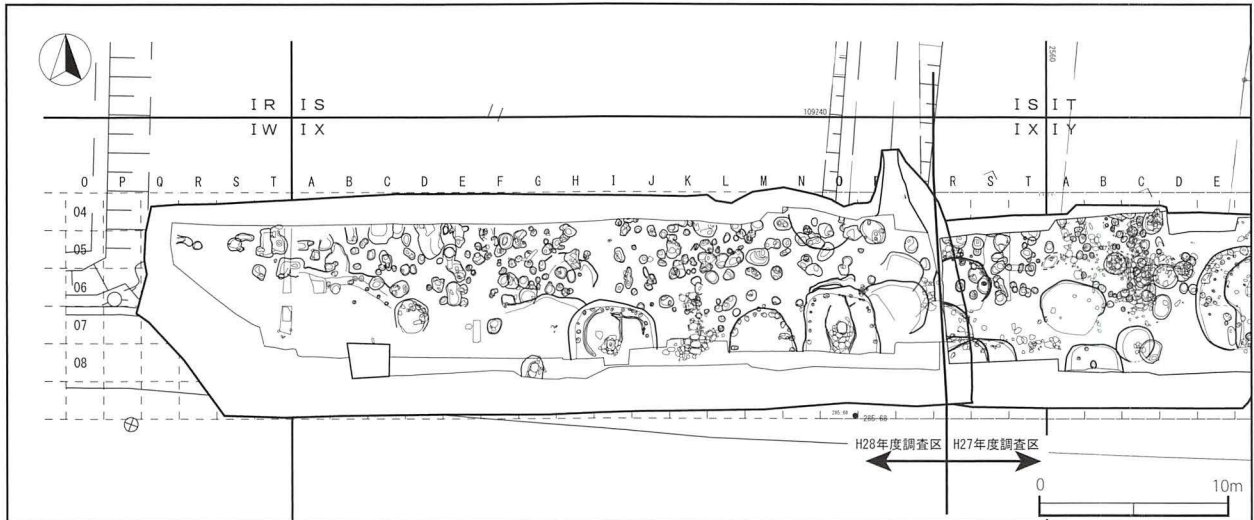


図4 ひんご遺跡平成28年度調査区全体図

葉から後葉初めの土器群である。27年度調査ではこの時期の土器は少量であり、沖ノ原式期の土器が多量であった。

縄文時代中期の遺構・遺物

中期中葉から後葉初めの土器は、調査区西側部分の南半、V層の堆積が厚い斜面部分から多量に出土した。土器量に対して、当該時期の遺構は、後期の遺構に切られたためか少なく、貯蔵穴1基のみである。調査区西端付近の斜面にあり、規模は東西約1.7mの円形で、フラスコ状を呈する。埋土下半部から王冠型土器の破片が出土した。

土器群の主体を、火焰型・王冠型土器など新潟県を中心に分布する馬高式土器が占め、大木8a・8b式土器もみられる。長野県に多い焼町土器などは極めて少量である。中期後葉の沖ノ原I・II式期の遺構には、複式炉の可能性ある石組みを伴う埋設土器1基と、逆位の埋設土器1基がある。

縄文時代後期の遺構・遺物

ほぼ主体部が推定できる住居跡には、竪穴住居跡SB27・28と、敷石住居跡SB24・26がある。SB26～28は斜面部にあり、北側の奥壁から炉付近まで把握できたが、千曲川に面した出入口部分は調査範囲外となった。SB28(図3)は主体部が隅丸方形を呈し、東西4.6mである。床面周囲に柱穴がめぐり、その内側に幅10～20cm、深

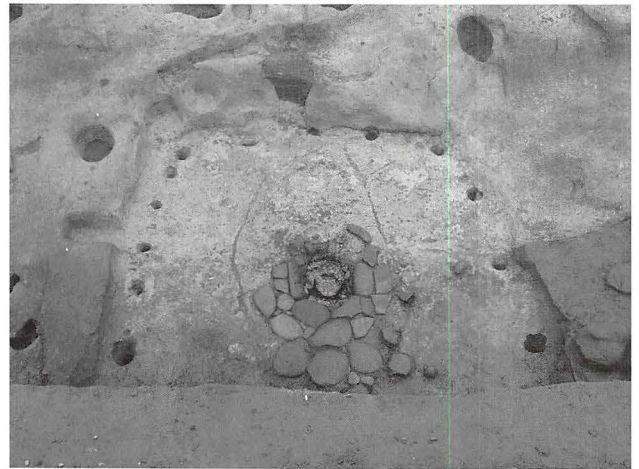


図5 敷石住居跡SB26(南から)



図6 敷石住居跡SB24(南から)

さ5cmほどの小溝がある。方形の石囲炉があり、炉石は扁平礫を平らに設置する。炉内には多数の土器片を敷きつめ、多量の炭・焼土・灰が残存していた。SB27は主体部が円形と推定され、壁柱穴がめぐり、

SB26（図5）は主体部が隅丸方形、東西4.1mである。SB28と同様に壁柱穴がめぐり、多量の炭・焼土が残る土器片敷き石囲炉がある。奥壁から炉を挟んで小溝が走る。炉から出入口部分には敷石がある。SB26～28は堀之内1式期に属す。

SB24（図6）は奥壁から張出部まで検出され、長軸5.4mを測る。V層中に床面があるため、平面形は不明確で、柱穴は確認できなかった。扁平礫を立てて埋置した方形石囲炉に埋設土器がある。炉の周囲から張出部に敷石があり、先端部には立石を設ける。時期は堀之内2式期である。

このほかにも三十稲場式と堀之内1式期の炉埋設土器、住居奥壁の残存部と推定される掘込みなどが検出された。

後期前半は、初頭段階に縄文を多用した土器と三十稲場式土器、次いで新潟県に多い南三十稲場式古段階がみられる。また堀之内2式土器と南三十稲場式新段階の土器に石神類型とされる土器が伴う。加曾利B1式は少量である。堀之内2式期前後には、極めて軽量で白色を呈する見慣れない土器があり、分布範囲を追跡する必要がある。

石器の器種では石鏃、打製石斧、磨石・凹石、スクレイパーが多く、磨製石斧、軽石製品も目立つ。多量の剥片・碎片類に対して、道具は少ないようである。剥片石器の素材は、地元産の無斑晶質安山岩が圧倒的に多く、チャート・黒曜石は極めて少ない。

多数の土坑群と墓跡、炭化物集中

調査区の北半部、微高地の平坦面には多数の土坑が分布する。直径50～100cm前後の土坑の中に、木柱の根固めと思われる礫を埋置したものが含まれ、多角形、長方形に配置するものもみられる（図7）。規模・形状から柱穴と推定される土坑が多いため、掘立柱建物群が広がると考えられる。

墓跡と推定される土坑は少数であるが、配石墓1基が検出された（図8）。南端は調査区外にかかるが、長軸100cm以上、短軸73cmの楕円形に扁平円礫を立てて埋置し、囲みの中に大形礫を平ら



図7 掘立柱建物跡（東から）

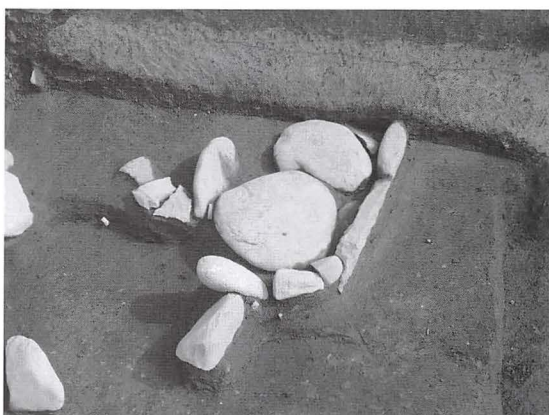


図8 配石墓（北から）

に置いている。北端の棒状礫は立石であろう。墓坑北端から、堀之内2式小形浅鉢が逆位で出土した。

遺物包含層であるV層の上部には、調査区全体にわたって多くの炭化物が含まれている。炭化物・焼土が集中する部分と土器が集中する部分が多数みられた。炭化物には形状を留めた種実もあり、クリが集中する部分がある。

信越国境の縄文時代中・後期集落

本遺跡の集落としての継続時期は、縄文中期の馬高式期から後期の加曾利B1式期である。この間、中期中葉はほぼ新潟県の馬高式が占め、後葉前半は信越に分布する栃倉式となる。後葉後半は沖ノ原式を主体に、千曲川流域を通じて伝わった加曾利E式が存在する状況となっている。後期前半は信越両地方の土器が共存し、地域色ある土器もある。遺構については、新潟県ではまれな敷石住居と、長野県では少数の掘立柱建物が併存していた可能性がある。埋蔵文化財の調査が少なかった地域で、初めて目の当たりにする成果や、解明すべき多くの課題も得られた。（綿田弘実）

(2) やなぎさわ い せき 柳沢遺跡

(県道中野飯山線関連)

所在地および交通案内：中野市柳沢字屋敷添。
国道 292 号線古牧橋の南交差点から東約
600m。

遺跡の立地環境：高社山麓の崖錐地形先端
部および夜間瀬川沿いの低地。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.10.3 ~ 11.30	900㎡ (本調査) 5,220㎡ (確認調査)	鶴田典昭 石丸敦史

検出遺構

遺構の種類	数	時期
土坑	10	弥生時代、近世以降ほか
溝	1	近世以降
掘立柱建物跡	1	時期不明

遺跡と調査の概要

遺跡は千曲川と夜間瀬川の合流地点にある。
平成 18 年～ 20 年度の発掘調査 (築堤事業関連)
で、縄文時代、弥生時代、平安時代の集落跡
が確認された。弥生時代では中期後半から後
期の竪穴住居跡 8 軒のほか、青銅器埋納土坑、
礫床木棺墓が確認されている。

平成 28 年度は本調査 (A 区) と確認調査 (C
～ E 区) を行った。A 区は遺跡の北端にあたり、
弥生時代の不整形な土坑と近世以降の溝跡な
どを確認し、縄文時代中期、弥生時代中期後半、
中世の遺物がわずかに出土した。C 区では平
安時代の土器片がまとまって出土する遺物包
含層を、D 区では掘立柱建物跡 1 棟を確認し
た。E 区は遺跡の南端であり、遺構・遺物は
確認されなかった。

平成 29 年度は B 区、C 区、D 区の調査を行
う予定である。(石丸敦史)

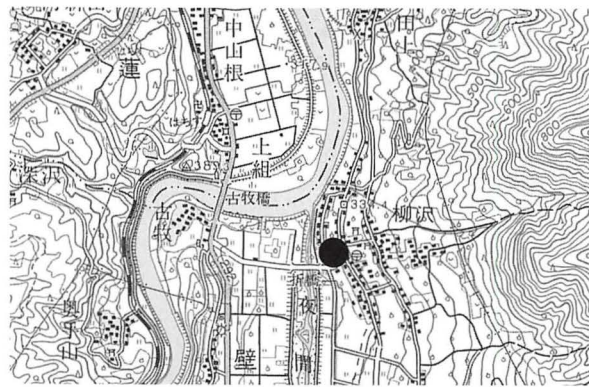


図 9 柳沢遺跡の位置 (1:50,000 中野)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文中期、弥生後期、古代 (土師器・須恵器、 灰釉陶器)、中世 (内耳土器)



図 10 調査範囲

(3) ふたつしまえいせき ニツ石前遺跡

(県営中山間総合整備関連)

所在地および交通案内：上高井郡高山村大字高井。高山村役場から南東約 800m。

遺跡の立地環境：樋沢川左岸の扇状地に立地。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.4.12～6.7	2,000㎡	黒岩 隆 福井優希

検出遺構

なし

遺跡中心部の調査

ニツ石前遺跡は長野盆地北部を見下ろす高山村高井地区に所在し、樋沢川左岸の扇状地扇中央部に立地する。標高は約 580～600m を測る。発掘調査歴はないが、昭和 53 年に村教委による遺跡詳細分布調査により石鏃や石棒などの遺物が採集されたため、縄文時代の遺跡であることが確認された。今回が初めての発掘調査となる。

調査は県営中山間整備事業に伴って拡幅・新設される農道部分の両側に幅 1m ほどのトレンチを 12 本設定し、調査を実施した。調査の結果、縄文時代の削器（スクレイパー）1 点がみつかったのみで、遺構は検出されなかった。



図 12 出土した削器（縄文時代）

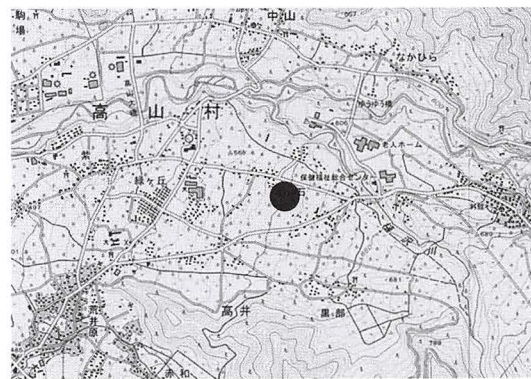


図 11 ニツ石前遺跡の位置（1：50,000 中野）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
石器	縄文 削器（スクレイパー）

今回の調査範囲は、ニツ石前遺跡の中心部にあたる。トレンチを掘削したところ、大半が現耕作土直下で、大形の礫を含んだ暗褐～褐色シルトの地山層が露出した。ただし、現在は開墾の影響により緩やかな傾斜面となっているが、土層の断面から本来は尾根上の高まりと浅い谷状地形が組み合わさった地形環境、つまり扇状地形形成段階の旧河床および浅い谷状地形の底部分にあたると思われる。

遺物がごくわずかに散布するだけであったが、周辺には八幡添遺跡や荒井原遺跡、黒部遺跡など縄文時代の拠点集落跡がいくつか点在していることや、今回採集された削器の石材である凝灰岩は地山層には含まれていないこと等から、遺物はそれらの拠点集落もしくはその他の土地から、一時的にこの地を訪れた人々の手によって持ち込まれた可能性が考えられる。（福井優希）



図 13 トレンチ掘削状況（南から）

こじま やなぎはら いせきぐん (4) 小島・柳原遺跡群

(一般国道18号長野東バイパス関連)

所在地および交通案内:長野市柳原 1561 ほか。

長野電鉄柳原駅から南東約 450 m。

遺跡の立地環境:千曲川左岸の自然堤防上に立地。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.6.1 ~ 29.1.6	3,000㎡	寺内貴美子 石丸敦史 柴田洋孝 小林伸子

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	15	平安
土坑	379	平安～近世
溝跡	9	中世～
焼土跡	14	平安～近世
墓跡	23	中世～近世
遺物集中	4	平安

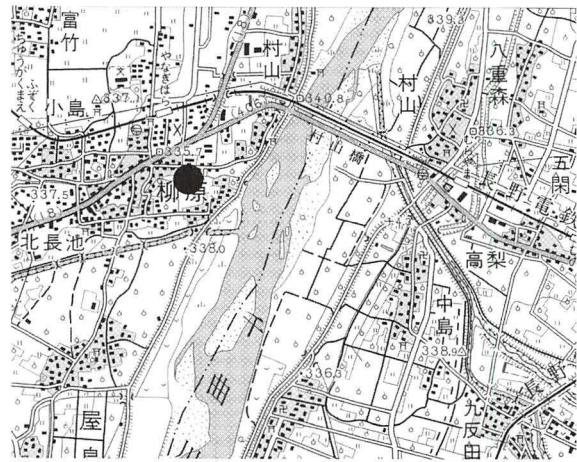


図 14 小島・柳原遺跡群の位置
(1:50,000 須坂)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器・土製品	平安(土師器、須恵器、灰釉陶器、甗の羽口)、中近世(陶磁器、内耳土器)
石製品	中世(五輪塔)
木製品	中世(杭)
金属製品	平安(塔鏡形合子、銅鏡ほか) 近世(煙管、銭貨ほか)
骨	中世～近世(人骨、獣骨)



図 15 遺跡遠景(南から)

調査の概要

小島・柳原遺跡群は、長野市東部の千曲川左岸自然堤防上に位置する。遺跡群の推定範囲は北長池から大町まで広がっているとされ、今回の調査地点はその南端にあたる。

過去に周辺で実施された発掘調査を概観すると、水内坐一元神社遺跡では弥生時代の環濠とみられる大溝、周溝墓や竪穴住居跡などが確認されており、当該期にかけてすでに大規模な集落が営まれていたようである。

平安時代から近世の遺構

今年度は、北八幡川南側の1区と、北八幡川北側から村山堰までの2区西側を調査した。その結果、平安時代の竪穴住居跡、中世以降の溝跡、中世から近世墓跡などの遺構が確認できた。

調査区全体で平安時代の竪穴住居跡が検出されており、この時期に集落が形成されていたことが確認できた。とくに2区南側には竪穴住居跡が集中していたが、中には流路（旧北八幡川）に壊されているものもあり、平安時代以後に流路が移動したことが確認できる。



図 16 平安時代の竪穴住居跡

2区で検出された南北に延びる中世に掘削されたと思われる大溝は幅6m、深さ1.5m以上あり、埋土には空風輪を中心とした五輪塔が30点以上廃棄されており、城館や寺院跡などの区画溝の可能性もある。また、中世から近世の土葬および火葬の墓群があり、そのうち土葬の1体は壮年女性と鑑定された。来年度調査予定の2区東側でもこれらに関連する遺構・遺物の発見が期待される。



図 17 中世以降の大溝

とうまりがたこうす

塔鏡形合子の出土

平安時代の竪穴住居跡埋土から、「塔鏡形合子」の蓋が出土した。

塔鏡形合子は、球状胴部の中程で蓋と身に分かれ、蓋には塔を模した紐が、身には台脚が付いている。蓋口縁と身口縁は密着して合うようにつくられている（合口造）。正倉院に金銅製5点、黄銅製1点、佐波理製1点、赤銅製3点の計10点、法隆寺に佐波里製1点が宝物として伝世している。出土品では栃木県日光男体山山頂遺跡の銅製13点が知られている。铸造品であるが、最終的に口クロ挽きで仕上っていると考えられている。蓋の塔部分と身の台脚部分は別鑄した後、^{ひょうど}鋳留めなどで形を作っているものもある。

塔鏡形合子の用途は、法隆寺の玉虫厨子等の絵画資料に塔鏡形合子と柄香炉を持つ僧侶が描かれ、正倉院宝物の塔鏡形合子に香抹が確認されるものがあることから、香を入れた容器であるとされている。小島・柳原遺跡群の出土品は銅製で、蓋上部にある台座に3重

の相輪がつくが、宝珠は欠損している。相輪各層上面には圈線、蓋には細沈線の条線が施されている。内面に鋳が確認でき、塔上部は別鑄で作られている。現存高6.3cm、口径7.8cm、最大径8.2cm、重さ102gを測る。

塔鏡形合子そのものは8世紀頃のものと考えられるが、出土した竪穴住居跡は出土土器から9世紀以降と考えられる。遺跡からの出土例として重要であるが、その意味や意義の解明は今後の課題である。(寺内貴美子)

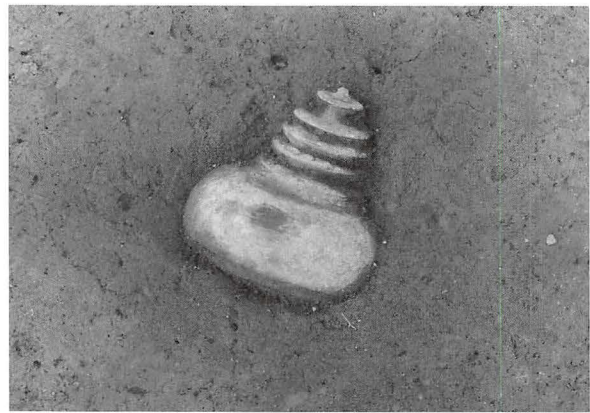


図18 塔鏡形合子出土状況



図19 竪穴住居跡埋土 塔鏡形合子出土位置

(5) しおざき い せきぐん 塩崎遺跡群

(一般国道 18 号坂城更埴バイパス関連)

所在地および交通案内：長野市篠ノ井塩崎 2232
ほか。JR 篠ノ井線稲荷山駅から南東約 1km。
遺跡の立地環境：千曲川左岸の自然堤防（標
高 358 m 付近）にかけて立地し、調査区は
自然堤防を横断するように位置する。

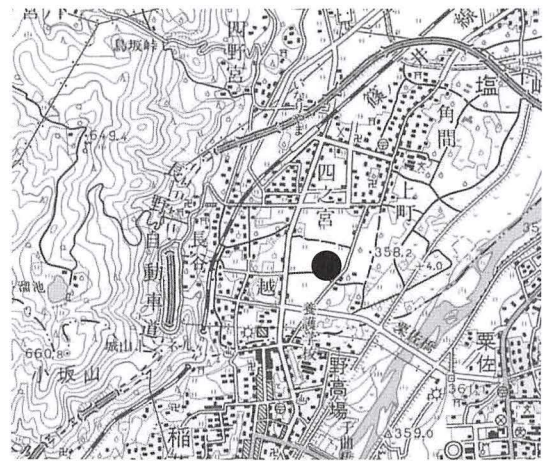


図 20 塩崎遺跡群の位置 (1:50,000 長野)

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.4.11 ~ 29.1.16	4,000㎡	市川隆之 櫻井秀雄 鶴田典昭 綿田弘実 石丸敦史 柴田洋孝 藤原直人 廣瀬昭弘 飯島公子 風間真起子 杉木有紗 大久保邦彦

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
竪穴住居跡	縄文～中世 (土器・陶磁器)
石器・石製品	弥生 (打製・磨製石鏃、石槌、管玉)、 平安 (分銅)、中世 (石臼)
金属製品	弥生～近世 (棒状鉄製品、キセル)
木製品	中世 (曲物)
その他	弥生～中世 (ガラス小玉、土玉、骨)

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	8	弥生後期・平安
掘立柱建物跡	2	弥生後期
溝跡	11	弥生～中世
墓跡	5	弥生
土坑	83	弥生～中世
井戸跡	21	弥生～中世

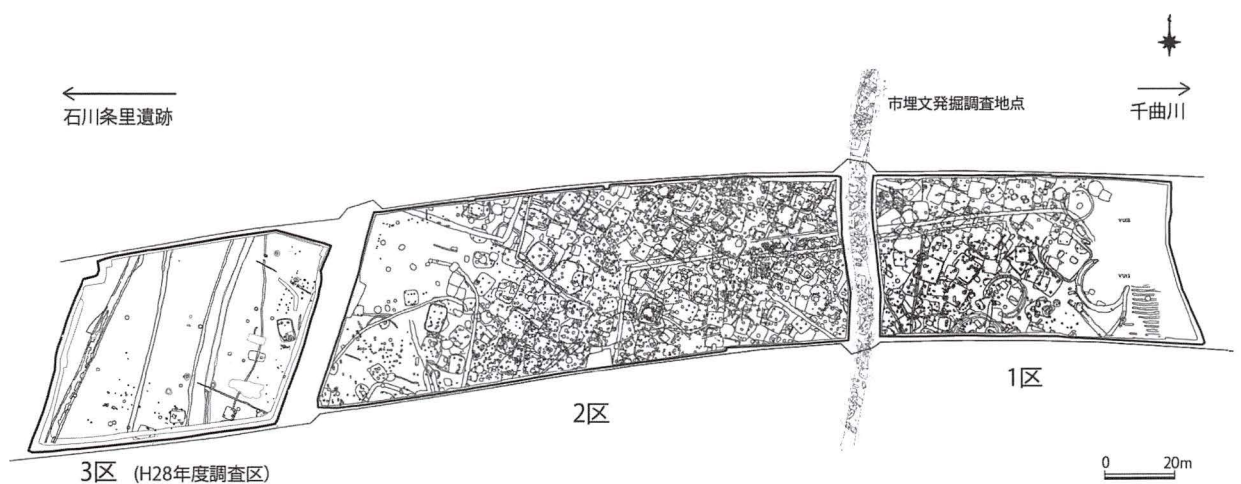


図 21 塩崎遺跡群全体図



図22 塩崎遺跡群3区の溝跡（南から）

後背湿地へ続く遺跡西端の様相

塩崎遺跡群は、千曲川沿いの自然堤防に立地する弥生時代中期～平安時代の集落遺跡であり、今年度の調査区（3区）は遺跡最西端にあたる。

3区の遺構密度は低く、住居跡は弥生時代2軒、平安時代6軒のみであった。調査区中央には弥生時代後期の南北に走る2条の溝跡が検出された。弥生時代の建物跡はこれより西側には認められず、集落域の西を区画する役割があったものと想定される。なお、この西側には古墳時代前期と平安時代の溝跡も検出されており、これらも各時代の集落の西限に掘られるという同様なありかたをしている。なかでも平安時代の溝跡については、未調査部分を挟むが石川条里遺跡1区で検出された水田に伴う水路とつながる可能性が高く、この溝跡が塩崎遺跡群の集落域と西側の後背湿地に広がる石川条里遺跡の水田との境をなす。

平安時代の住居跡から出土した石製分銅

特記すべき遺物として、平安時代の住居跡から出土した棹秤用の石製分銅（権衡）1点があげられる。長野県内では、古代の分銅の報告例はほとんどない。出土した分銅の高さは約9cm、重量は約420gを量り、全国的にも有数の大形品である。集落の縁辺部に位置するこの住居跡からは黒色土器の三足盤2点

も出土しており、この集落には稀少品を保持する有力者が存在していたことがうかがえる。

平成25年度から始まった発掘調査は、一部の残件をもって終了した。（櫻井秀雄）

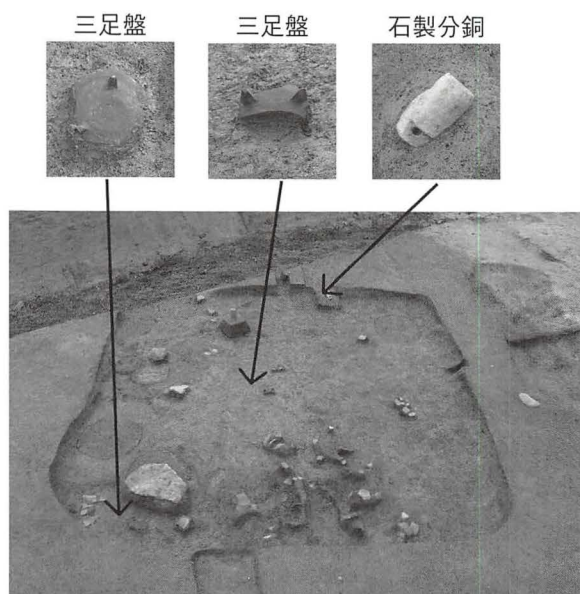


図23 石製分銅、三足盤出土状況（SB3001）

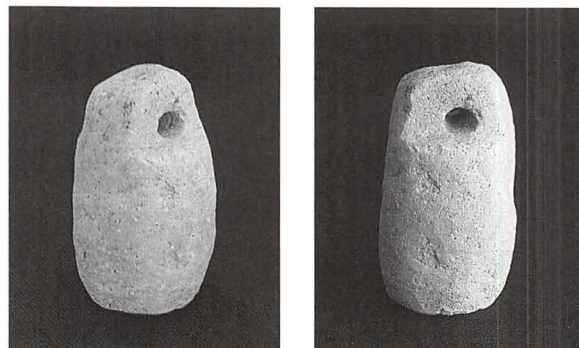


図24 石製分銅

(6) いしかわじょうり いせき 石川条里遺跡

(一般国道 18 号坂城更埴バイパス関連)

所在地および交通案内：長野市篠ノ井塩崎 2568
ほか。JR 篠ノ井線稲荷山駅から南東約 1km。
遺跡の立地環境：千曲川左岸の後背低地（標
高 357m 付近）に立地し、調査区は後背低
地を横断するように位置する。

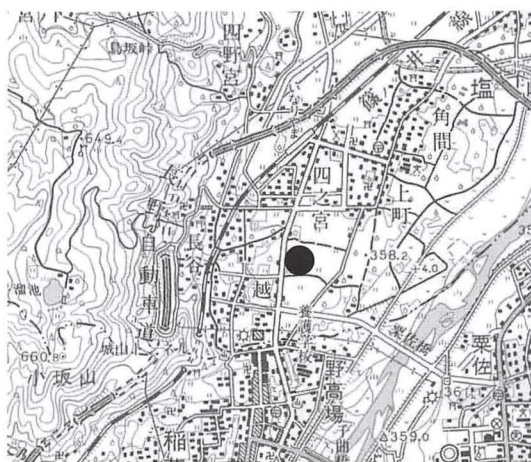


図 25 石川条里遺跡の位置 (1:50,000 長野)

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.4.5 ~ 29.1.16	13,000㎡	市川隆之 鶴田典昭 綿田弘実 藤原直人 石丸敦史 柴田洋孝 廣瀬昭弘 飯島公子 風間真起子 杉木有紗 大久保邦彦

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器・ 土製品	弥生～中世（土器、陶磁器、土錘）
石器・石製品	弥生～古墳（磨製石斧、勾玉、管玉）、中～ 近世（砥石・石臼・凹石）
金属製品	中世（錢貨）
その他	中世（曲物）

検出遺構

遺構の種類	数	時期
掘立柱建物跡	6	中世
溝跡	98	弥生～近世
墓跡	5	中世・近世
土坑	359	中世・近世
井戸跡	40	中世～近世
畔跡	34	平安



図 26 石川条里遺跡全景

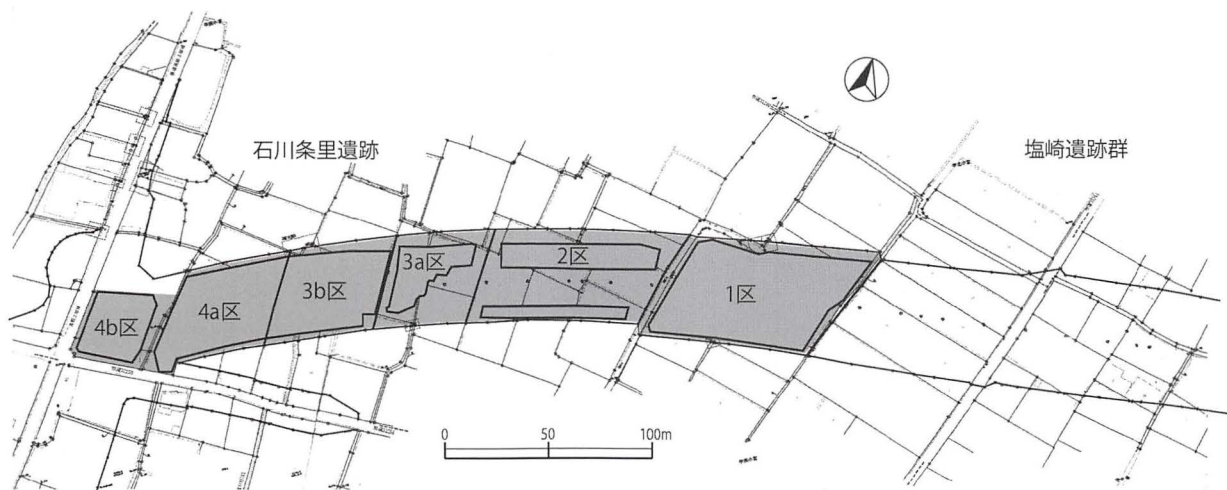


図 27 石川条里遺跡平成 28 年度調査地区

塩崎遺跡群に隣接する水田遺跡

石川条里遺跡は、千曲川左岸の後背低地に立地する水田遺跡で、遺跡北半分は長野市教育委員会や長野県埋蔵文化財センターの調査で水田跡がみついている。塩崎遺跡群に隣接する南半分は調査歴がなかったが、今回の調査で水田遺構が期待された。今回の調査地点では堆積土層が薄いながら4面を調査し、水田跡や集落跡が検出された。

1面 中世居住遺構の検出

1面では溝跡などの水田施設のほかに1区で鎌倉時代後半の3×7間の大型掘立柱建物跡、井戸跡やコ字形の区画溝跡などの居住とかわる遺構、4a区では墓が検出された。遺跡内の水田以外の利用が判明した。



図28 1区の大型掘立柱建物跡

2面 平安時代前期末の水田跡

2面は平安時代前期末頃に比定される砂層で覆われた水田跡がみつかった。砂の堆積が薄い上に後代の耕作で攪乱され、大畦や溝跡のみ検出できたが、走行方向や位置から石川条里遺跡北半分と同じ条里型水田と判明した。また、4b区では条里方向の平安時代溝跡と、奈良時代後半と思われる溝跡が重複してみつき、当地での条里型水田施工時期が判明した。

3面 古墳時代～奈良時代の水田跡

2面水田耕作土下で3面を調査した。平安時代大畦基部、条里と異なる方向の奈良時代後半の溝跡や畔基部を検出した。



図29 4b区2面の平安と奈良時代溝跡

4面 弥生後期以前の水田跡

3面の下層の下には薄い粘土層、厚い黒褐色土層とが確認された。上部から弥生時代後期初頭の土器が出土し、粘土層はそれ以前に形成されたと考えられる。

プラント・オパール分析の結果、水田跡存在の可能性が想定されたので、2区の一部で4面として調査した。等高線方向の幅1m前後の低い盛り上がりや断片的な溝状窪みが検出されたが、いずれも不整形で水田遺構とは断定できない。この粘土層上面に数cmの腐植した炭化物片が混じっていたが、長期に耕作放棄されたため、繁茂した草木が炭化したものと思われる。(市川隆之)

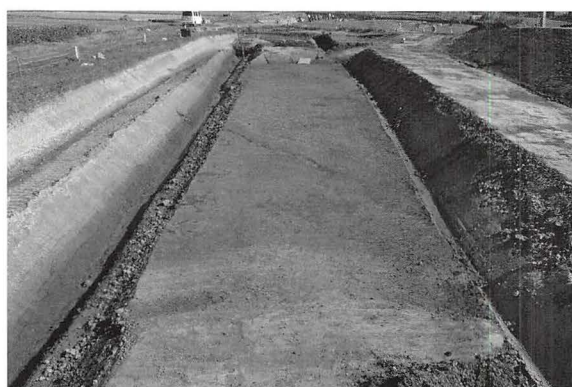


図30 2区4面の調査状況

いでがわみなみ い せき (7) 出川南遺跡

(都) 出川双葉線関連

所在地および交通案内：松本市出川町 20 ほか。
JR 南松本駅より南 500m。

遺跡の立地環境：奈良井川扇状地と田川・牛伏川扇状地が接する合流扇状地の末端に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.4.5 ~ 6.3.0	440 m ²	廣田和穂 片山祐介

検出遺構

遺構の種類	数	時期
土坑	8	古代～中世
溝跡	2	古代～古代
小溝跡	23	中世
畝跡	1	中世
ピット	120	古代～中世

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	古墳・古代（土師器・須恵器）
石器	石皿、磨石

遺跡の概要

本遺跡は、松本市内を北流する田川の左岸にあり、JR 南松本駅を中心に東西約 750 m、南北約 600 m の範囲に広がる。遺跡周辺の標高は 593 ~ 598 m で、東方 500 m に田川、西方 2.2 km に奈良井川が北流するため、南から北に向かって緩やかに傾斜する場所にあたる。遺跡の北側に出川西遺跡、南側に平田北遺跡が隣接する。出川西遺跡は、松本市教育委員会により発掘調査が行われ、古墳時代前期の東海系土器を伴う住居跡が確認されている。田川を隔て、東方約 1.5 km の中山丘陵突端には弘法山古墳がある。

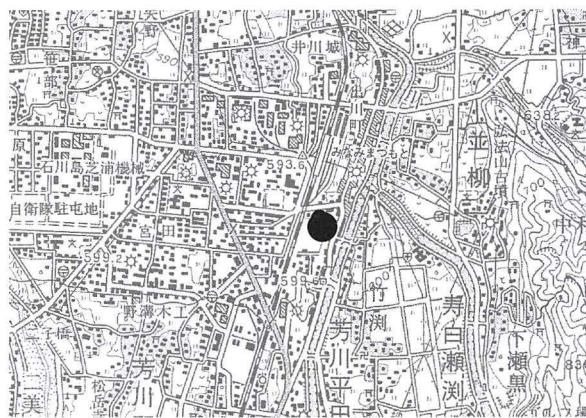


図 31 出川南遺跡の位置 (1:50,000 松本)

本遺跡は、昭和 61 年度の第 1 次調査以来、松本市教育委員会によって、平成 26 年度の第 26 次まで調査が行われてきた。これまでの調査で、弥生時代中期から平安時代の住居跡 600 軒以上が確認され、約 1,000 年間にわたり集落が継続した状況が明らかになっている。また縄文時代晩期後半や中世の遺構も確認されている。

平成 24 年度からは、当センターにより第 24・27 次調査を行い、今回は第 28 次調査にあたる。調査地の隣接地では、第 6 次・9 次・22 次・23 次の調査が行われ、弥生・古墳・平安時代集落が検出されている。

本年度の調査成果

昨年実施した第 27 次調査地の北隣に位置する。一昨年の第 24 次調査および第 27 次調査では、第 1 面で平安時代から中世の遺構、第 2 面で弥生後期から古墳中期の遺構を確認、今回の調査でも 2 面調査を実施した。

第 1 面では、第 24 次調査で確認されたものと同じ東西方向の溝 2 条がみつかった。2 本の溝は切り合い関係にあり、北側が新しい。また、2 本の溝間に平行してピット列が検出された。このピット列は第 24 次調査では確認されていない。溝に伴って、平安時代の土器小片が数点出土した。しかし第 24 次調査では遺物が出土しておらず、下層より出土した炭化物を放射性炭素年代測定にかけたところ、13 世紀後半から 14 紀半ばの結果が得られている。



図 32 出川南遺跡でみつけた
小溝跡・土坑・畝跡(南から)

本年度調査では出土遺物に基づいて古代と推定するが、今後の整理作業により年代測定値との関係を精査する必要がある。このほかに東西方向に伸びる小溝、南北方向の畝状遺構等が確認されたが、昨年の第27次調査でみつけた中世の掘立柱建物跡とみられるピット群は確認されなかった。

第27次調査では第1面直下で古墳時代中期の須恵器を伴う竪穴状遺構1基と溝2条が検出されたが、今回の調査ではこの層は確認できなかった。

第2面は、昨年の調査区西半で第2面遺構面が確認されず砂礫層のみであったため、本年度も西半は試掘トレンチによる下層確認を行い、昨年と同様に第2面が存在しないことを確認した。調査区東半では、第2面の面的調査を行った。しかし調査区東半でも第2面遺構面が確認されず、第1面遺構の下から流路とみられる砂層の堆積が確認された。

流路性の砂礫層は、第24次調査の東端から第27次調査の中央に向かって大きく北東か

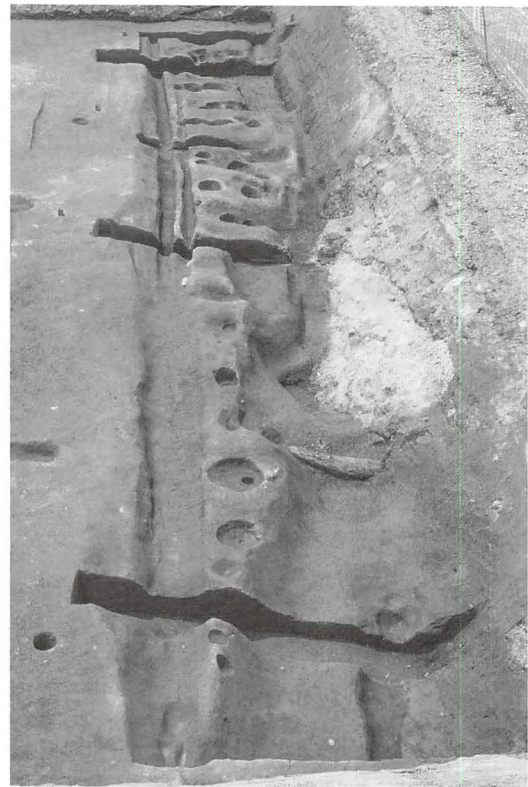


図 33 出川南遺跡でみつけた溝跡・ピット列(東から)

ら南西方向に入りこんでいる。おそらく、古墳時代後期以前期の遺構面は第27次調査の東半から南東方向へ向かって広がっており、今回の調査区はその外側の流路に該当し、流路に面した遺構として第24次調査の619号住居跡および第27次調査の竪穴状遺構4が所在したと考えられる。

今後は、松本市教育委員会による調査も含め、周辺の調査成果をふまえた詳細な地形復元等が必要となる。(片山祐介)

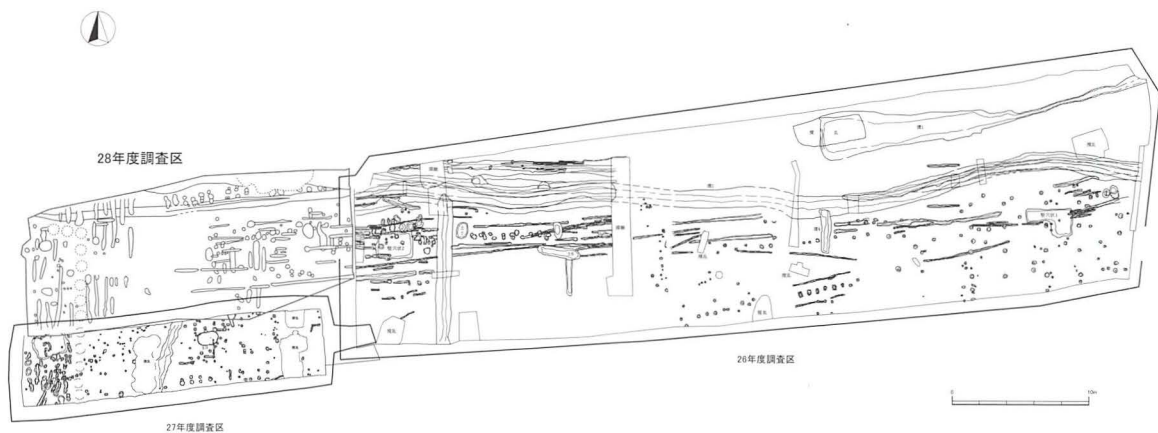


図 34 出川南遺跡第24・27・28次調査(第1面)

(8) やまとりばいせき 山鳥場遺跡

(県道御馬越塩尻(停)線関連)

所在地および交通案内：東筑摩郡朝日村西洗馬 1448-1 ほか。朝日村役場より東へ約 1.6km。県道 292 号から 298 号を経てスタービレッジ東側。

遺跡の立地環境：鎖川右岸段丘上、内山沢の形成した扇状地先端部に位置する。標高 780m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.7.1 ~ 11.30	1,400㎡	廣田和穂 片山祐介

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	10	縄文中期～後期
土坑	86	縄文中期
自然流路	2	縄文晩期以前

遺跡の概要

県道御馬越塩尻(停)線の建設にあたり朝日村教育委員会が試掘調査を行い、縄文時代の遺構が確認された。平成 28 年度に当センターにより発掘調査を開始した。今年度は県道 298 号と村道西 46 号に挟まれた地点を 2 地区に分けて調査した(図 36)。①区は、確認調査の結果、耕土直下より地表下 2.7 m まで砂礫層となり、遺構・遺物包含層ともに残存しないことを確認した。②区は、縄文時代中期後葉・後期・晩期の生活痕跡を確認した。②区の基本土層は 3 層に分かれる。I 層は灰褐色耕土、II 層は黒褐色腐食土で縄文時代遺物を含む。III 層は黄褐色ローム層で基盤層となる。調査区内において II 層は部分的にしか堆積せず、耕土直下で III 層となる範囲も確認された。遺構は III 層上面で検出した。

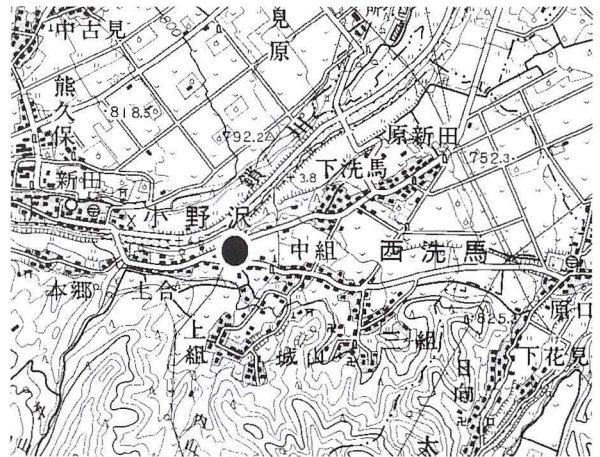


図 35 山鳥場遺跡の位置 (1:50000 塩尻)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・土製品	縄文中期～晩期(深鉢、浅鉢、注口土器、台付鉢ほか)土偶(胴、足)
石器・石製品	石鏃、打製石斧、磨製石斧、砥石、石皿、磨石、凹石、剥片ほか
その他	骨片

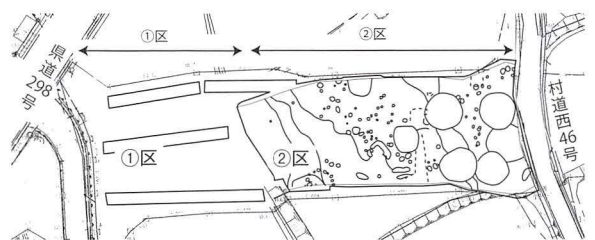


図 36 調査範囲

縄文時代中期後葉

竪穴住居跡 8 軒、土坑約 80 基、大量の土器片のほかに土偶、石器等が出土した。当該期の遺構は②区全面に分布するが、遺構数や遺構密集度は②区西端から東端に向けて高くなる傾向が認められる。また基盤層が②区西端から①区に向けて低く傾斜することが確認されており、当該期の集落域の西端が①・②区境付近となる可能性がある。一方、調査区東端は遺構が密集しており、次年度調査区の方に向けて集落域がさらに広がることが予想される。また住居跡間の重複関係や住居跡出土土器型式からみて、当該期において数段階の集落変遷となる可能性がある(図 36)。



図 37 竪穴住居形状 a (不整円形)



図 38 竪穴住居形状 b (五角形状)

竪穴住居跡の形状と規模は、a：プランが不整円形状で長軸が5.7～6m（図37）、b：プランが五角形状で長軸が4～5mの2者に分かれる（図38）。この形状は同村で調査された熊久保遺跡でも確認でき、中期後葉の間にa形態からb形態に変遷することが判明している（註1）。本遺跡でも同様の変遷をたど

るか、今後の検討課題としたい。住居跡内の炉はいずれも石囲炉で、長方形のことが多い。炉内埋土は住居跡埋土に類似し、炭化物・灰などの堆積は基本的に認められない。さらに炉石の一部が意図的に抜かれたと推測される例も認められ、炉の廃絶に関する一定の手順が存在した可能性がある。



図 39 7号住居跡出土土器（中期後葉）



図 40 土偶（中期後葉）

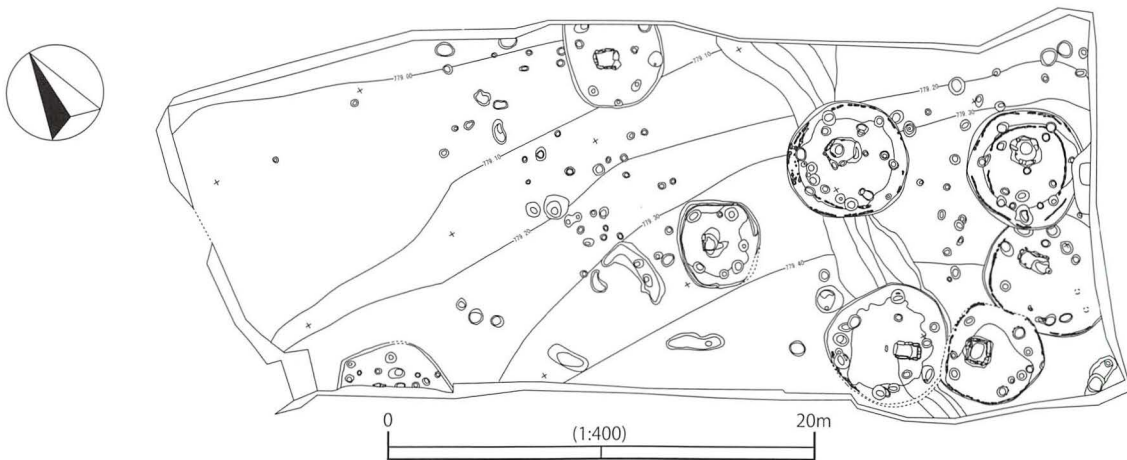


図 41 ②区縄文時代中期遺構配置図

土坑は約 80 基を検出した。平面は円形～不整形円形状を呈し、直径 30～50cm 程度のもが多い。②区中央～東部に分布するが、土坑同士が重複するほど密集せず、集落域内の土坑数としては少ない印象がある。同様の傾向は熊久保遺跡の集落域でも確認されている(註 1)。遺構の諸属性や分布の傾向については、松本平における当該期の調査成果を踏まえて検討してゆきたい。

当該期の土器は、キャリパー形口縁部に褶曲文を施す個体や、口縁部が直線的に外反し、円筒形の胴部を有する個体を含む一群と、唐草文や腕骨文を施文し、器形に樽形を含む一群の二者が認められ、当地の編年における中期後葉 I～II 期の所産と推測される。7 号住居跡では、縄文を地文とし沈線で剣先文と渦卷文を施す土器も出土した(図 39)。

土偶は胴部と足部の 2 点が出土した。胴部には沈線で渦卷文や剣先状の施文があり、当該期の松本平で出土する土偶に共通する特徴を有する(図 40)。類例は松本市葦原遺跡等に認められる。

石器は石鏃、石匙、凹石、石皿、打製石斧、磨製石斧等が出土した。石鏃は非常に少なく、調査区内で数点しか確認できない。松本平西南山麓における当該期の遺跡では、石器の組成中で石鏃の占める割合が少ない点が指摘されており(註 1)、本遺跡でも同様の傾向が認められる。



図 43 検出された竪穴住居跡群(中期後葉)

縄文時代後期

②区南西部の調査区境で、該期と思われる 2 軒の住居跡を検出した。3 号住居跡は、床面の一部に平石が並んで出土しており、敷石住居跡の一部と推定される。炉は長方形の石囲炉で炉体土器が伴う。また本住居跡を囲む様に複数の土坑を検出しており、位置的に本住居跡に伴う柱穴と推測した。

当該期の遺物は調査区外南方からの押し出しと推測される土混礫中より集中出土しており、調査区外南方に集落域が広がると推測される。

縄文時代晩期

②区南西部の調査区境で耳飾りや若干の土器片が出土した。遺構は検出されていない。遺物の分布範囲は後期と同様



図 42 耳飾り(晩期)

であり、調査区外南方に当該期の遺構が存在する可能性がある。

耳飾りは有文 2 点、無文 2 点が出土した。有文の 1 点は、直径 3 cm、厚さ 1.5cm を測る。表面は雲形に類似した文様が施される(図 42)。裏面は中央が薄い「ブリッジ」状で、中心に小さな穿孔がある。(廣田和穂)

註 1 : 朝日村教委 2003 『熊久保遺跡 10 次発掘調査報告書』

(9) かわらいせき 川原遺跡

(天竜川左岸築堤関連)

所在地および交通案内：飯田市下久堅知久平。

中央自動車道飯田ICから東へ約7.0km。

遺跡の立地環境：天竜川左岸の低位段丘面上。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.8.24 ~ 12.22	1,705㎡	黒岩 隆 福井優希 河西克造 藤原直人

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡等	10	縄文中期後半、縄文後期前半、縄文後～晩期
土坑	11	縄文10基、近世1基
集石	1	縄文1基

遺跡の概要

天竜川左岸の築堤護岸工事に伴い発掘調査された川原遺跡は、西側を流れる天竜川との標高差が4mほどの低い微高地上に位置する。今回の調査範囲は遺跡の北西端にあたる。

調査範囲全体を地形の変化する場所で北から1～3区に分け、遺構・遺物の確認を行った。調査区両端部の1、3区は近世以降の天竜川起源の洪水砂が厚く堆積し、遺構・遺物はなかった。2区は、東側から延びる狭い微高地上に、縄文時代中期後半から晩期初めの竪穴住居跡等10軒と土坑が発見された。

遺構で竪穴住居跡としたものは、形状、大きさとも様々である。床面は貼床がなく、炉跡はあっても焼土等が明確に確認されなかった。出土遺物は全体的に少なかった。調査では住居跡としたが、竪穴建物跡の一類型として、作業場や短期間および季節的な居住の場としての機能も考えられる。

各遺構から出土した縄文土器は各時期にわたるが破片のみで、石器は礫石器、剝片石器

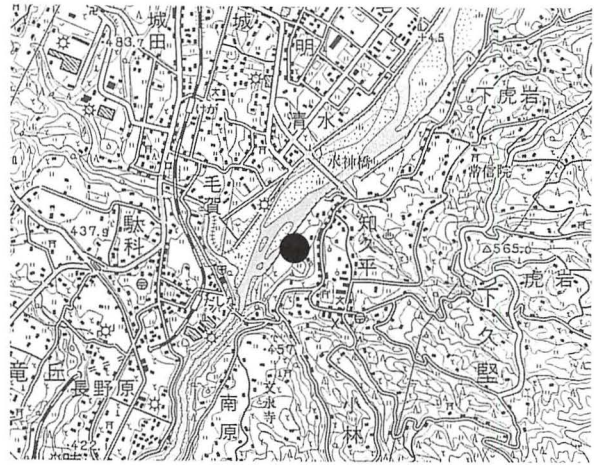


図44 川原遺跡の位置 (1:50,000 時又)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文時代中期後半、後期前半、後～晩期 中・近世陶磁器
石器	縄文時代中期後半、後期前半、後～晩期 (石錘、打製石斧、磨製石斧、石皿、削器、石鏃) 弥生時代中期後半 (磨製石鏃)

が出土した。とくに、石錘、横刃型石器、打製石斧が目立つ。さらに、各遺構から石器製作段階がわかる資料も出土している点は興味深い。

昭和44・45、56年に調査が行われた今回の調査範囲の東側では、弥生時代の住居跡が確認されているが、今回、その西側で縄文時代の集落跡が見つかった。遺構は重なりあい、縄文人は断続的にこの地を訪れ、天竜川沿いの低位微高地の居住集落域としての土地利用が、縄文時代にまで遡るといふ新しい視点加わった。集落の性格等については、今後、整理作業のなかで解明していく予定である。(黒岩 隆)



図45 天竜川によって両側を削られた微高地上に残る縄文時代の集落跡 (上方が天竜川)

しもがわらいせき (10) 下川原遺跡

(天竜川左岸築堤関連)

所在地および交通案内：飯田市下久堅知久平。
中央自動車道飯田 IC から東へ約 7.0km。
遺跡の立地環境：天竜川左岸の低位段丘面上。

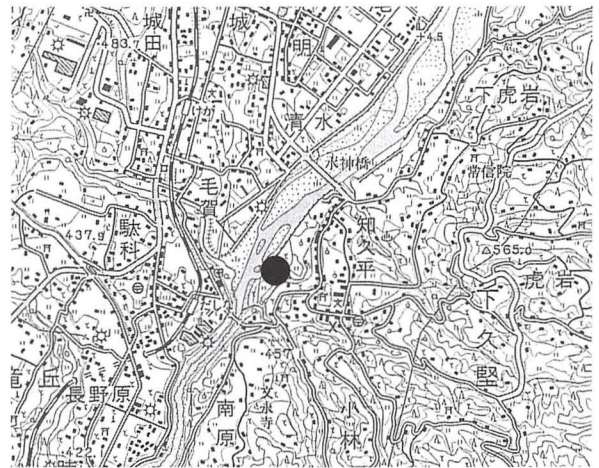


図 46 下川原遺跡の位置 (1:50,000 時又)

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
28.8.24 ~ 12.22	4,193㎡	河西克造 黒岩 隆 藤原直人 福井優希

検出遺構

遺構の種類	数	時期
水田跡	断面確認	近世以降

遺跡の概要

下川原遺跡は弥生時代の土器散布地として登録されているが調査歴がなく情報が少ない。そのため、遺構の存在の有無、時代や遺跡の内容を確認するためにトレンチによる調査を合計で 12 の地点で行った。その結果、調査区の北東側の地点 (5、8 トレンチ) で微高地を確認した。そこからは縄文時代の土器や石器、

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器・土製品	縄文、平安 (土師器、灰釉陶器)、中世 (陶磁器、内耳土器)、近世 (陶磁器)
石器	縄文 (石鏃)

平安時代の灰釉陶器、中世陶磁器などが出土し、当該期の遺構が存在する可能性が高いことが判明した。微高地より北側 (6 トレンチ) や南西側 (2 から 4、7 トレンチ) では天竜川起源の洪水により埋まった水田土壌をトレンチ断面で観察することができた。また、当該水田土壌からは近世後期～末期に地元の下久堅地区で焼かれた富田焼の陶磁器片が出土していることから、水田の埋没時期を考える上で手がかりとなる。

来年度については、縄文土器や古代の土器を出土した微高地の面的調査と近世に埋没したとみられる水田の調査を継続して実施する計画である。(藤原直人)

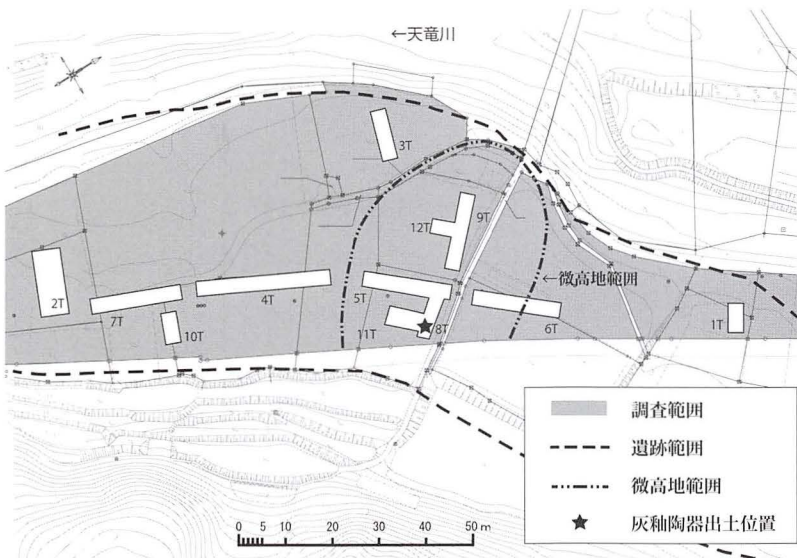


図 47 トレンチ配置図

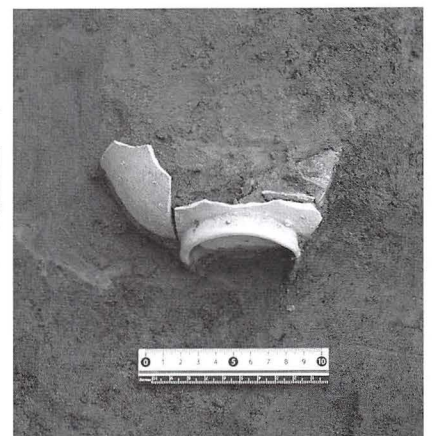


図 48 微高地から出土した灰釉陶器

Ⅲ 整理等作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	整理の内容（作業）	整理中の主な成果
ひんご遺跡	栄村	県道箕作飯山線	出土遺物の分類、実測拓本用土器の抽出と記録。	縄文時代中期中葉から後期中葉までの集落遺跡だが、縄文土器は早期や前期も確認できた。中期土器には火焰型土器や王冠型土器数個体を確認することができた。詳細は本文参照。
しおぎき いせきぐん 塩崎遺跡群	長野市	坂城更埴バイパス	遺物の洗浄・注記。 人骨・動物骨の鑑定。 図面修正等。	人骨鑑定作業により、弥生人骨に渡来系弥生人の特徴がみられた。弥生木棺墓出土の鉄剣には、近畿・瀬戸内で発見例のある規格性がみられるとの知見を得た。
あさかわせんじょうち いせきぐん 浅川扇状地遺跡群	長野市	都市計画道路 高田若槻線	H23～H27年までの 調査資料の整理。図 面修正・弥生時代遺 物の実測作業。	弥生時代後期から古墳時代にかけての集落跡を捉えることができた。詳細は本文参照。
あさかわせんじょうち いせきぐん 浅川扇状地遺跡群 ほんむらみなみおき いせき 本村南沖遺跡	長野市	新県立大学施設 整備事業	遺構図修正、デジタル トレス、遺物選別、 遺物実測・トレス、 写真撮影、原稿執筆、 報告書編集・刊行。	本村南沖遺跡は弥生時代後期初頭（吉田式期）のほぼ単純型式の遺跡であり、吉田高校グラウンド遺跡と同様、該期について検討のできる集落遺跡である。竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、土器棺2基がある。吉田式土器を古いもの新しいものに区分し、浅川扇状地遺跡群の集落立地について検討した。これ以外にも、古墳時代の溝跡を始め、9世紀後半に限られた竪穴住居跡を検出している。
ぢけいせき 地家遺跡ほか	佐久市	中部横断自動車道	佐久南IC～八千穂IC 間31箇所の記録類・ 調査所見・遺物の整 理。遺構図修正、デ ジタルトレス、注記、 遺物接合・実測。	木製品の分類・実測用資料の抽出、赤外線観察を行った。生活用具が少なく、祭祀的な道具の多いことがわかってきた。金属器の応急処置では、地家遺跡の火打金、尾垂古墳の直刀および刀装具の内容が明らかとなった。詳細は本文参照。
やでがわだいはちいせき 矢出川第Ⅷ遺跡	南牧村	県営畑地帯総合 土地改良事業	遺構図修正、デジタル トレス、遺物実測・ 写真等版組み、原稿 執筆、報告書編集・ 刊行。	AT降灰以前の石器群の確認。対向調整のあるナイフ形石器や、いわゆるベン先形ナイフ形石器がある。また中世とみられる長楕円形状の平面形をもつ落とし穴1基も確認され、底面には逆茂木片が残り、炭素年代測定を実施し、cal1444-1465等の結果を得た。
りゅうげんじあといせき 龍源寺跡遺跡	飯田市	国道256号	構図修正、デジタル トレス、遺物選別、 遺物実測・トレス、 写真撮影、原稿執筆、 報告書編集・刊行。	中世の礎石建物跡を検出し、15世紀から16世紀まで、2段階に変遷することが分かった。15世紀から16世紀中ごろでは、平場の形成後、建物とコ字状柵列が構築され、16世紀中ごろ以降では、礎石建物の建替え、石列の施設が行われることがわかった。

(1) ひんご遺跡

(県道箕作飯山線関連)

整理対象の概要

遺跡は平成 27・28 年、1,817㎡の発掘調査を実施した。2 か年の調査で検出した遺構は、発掘作業の概要で記したとおり、縄文時代中・後期の竪穴住居跡 23 軒、敷石住居跡 5 軒などがある。27 年度出土遺物は 138 箱、28 年度出土遺物は 123 箱を数える。

27 年度調査分について、今年度 8 月から 3 月まで本格整理を行った。土器を分類・接合・集計して記録した。抽出した資料のうち復元可能な個体は、実測・撮影できるように接着・石膏補填し復元した。石器は器種別に分類して台帳登録し、実測・撮影する資料を抽出した。石核・剥片類は石質別に集計した。

28 年度の出土遺物は、発掘終了後に洗浄・注記し、上記と同じ作業を行った。この作業の過程で観察された所見を、以下に記す。

縄文土器の内容

早期の押型文土器、絡条体圧痕文土器、前期の土器が少量ある。中期中葉以降、後期中葉にかけて集落が継続した時期であると考えられ、この間の土器は多量にある。馬高式、大木 8a・b 式、栃倉式、沖ノ原 I・II 式、加曾利 E III・IV 式、称名寺式、三十稲場式、南三十稲場式、堀之内 1・2 式、加曾利 B1 式が確認された。住居跡の時期とも比例して、堀之内 2 式期は特に多い。

中期中葉から後期初頭には、新潟県に分布する土器が量的に主体を占め、千曲川流域を經由し伝わったと推定される関東系土器が、これに次ぐ。

後期には新潟系土器と関東系土器の量的な差は小さくなり、両者が共存する。堀之内 2 式から加曾利 B1 式土器は、標準的な文様・形態をとるものと、模倣により変形が生じたものがある。新潟系土器と交わる、関東系土器の周辺分布域の様相として興味深い。堀之内 2 式後半に現れる石神類型は、浅間山麓に分布の中心があると予想されていたが、本遺跡では、それを上回る出土量がある。

石器の様相

器種には石鏃、スクレイパー、石錐、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、石皿等がある。剥片石器の多くは、地元で産出する無斑晶質安山岩を石材とし、打製石斧にも用いている。この石材の石核・剥片・碎片は多量に出土しているが、道具は比較的少ない。千曲川で採取した石材で石器製作を行っていたことは確実であろう。さらに本遺跡以外に流通している可能性もある。周辺地域の石材環境と比較し、同石材の分布範囲を確認したい。

千曲川下流域で縄文時代中・後期の集落跡の調査事例は希少である。新潟県側でも、信濃川上流域で住居跡を検出した縄文後期の調査事例は限られる。隣接地域の成果を踏まえ、報告書作成を行っていききたい。(綿田弘実)



図 49 王冠型土器



図 50 火焰型土器

(2) 塩崎遺跡群

(一般国道 18 号坂城更埴バイパス関連)

整理対象の概要

遺構の種類	総数	時期
竪穴住居跡	462	弥生中期～平安
溝跡	87	弥生～奈良
墓跡	88	弥生前期末～平安
土坑	2,212	弥生前期末～中世
井戸跡	68	弥生中期～中世

本年度開始した整理作業は、出土遺物と各種記録類の内容と数量把握を行った。出土遺物は遺物水洗を継続し、一部注記作業も実施した。出土人骨や動物骨、金属製品は外部有識者の整理指導を受けた。各種記録類は、遺構測量支援システムによる遺構図面の点検・出力作業を行うとともに、発掘作業時の調査所見をとりまとめた。

塩崎遺跡群だけでなく、西側に隣接する石川条里遺跡の状況も視野に入れ、今後、本格的な整理を進めていかねばならないが、今年度の整理作業で得られた所見を以下に記す。

図面 いくつかの木棺墓群の存在が、より明確になった。こうした木棺墓の形状(礫の有無、礫床、礫が周囲に充填されるもの)ごとの分布、規模、主軸の方向、出土遺物等の検討から時期やまとまりを抽出し、木棺墓形成時の遺跡や地域社会の実態を今後明らかにしたい。

土器 土器の洗浄・注記を進める中で弥生時代中期と思われる土器の底部に、布の圧痕がみられた。モデリングにより圧痕の形状の観察を進めた結果細かい繊維による織物と想定できた。

鉄製品 弥生時代末の木棺墓 SK1198 出土の鉄剣は、全長 22.4cm、身部長 13.7cm、残存茎部長約 8.7cm を測り、身部長に対して茎部が長い特徴がある。杉山和徳氏(埼玉県白岡市教育委員会)によれば、弥生時代後期から古墳時代前期のこうした特徴をもつ規格性の強い鉄剣は、瀬戸内、北近畿を中心に、北陸、東海、関東にも数本ずつ出土例があることが知られているという。

本例から、長野県にもこのタイプの鉄剣の流通が及んでいることが明らかになった。

人骨・動物骨 茂原信生(京都大学名誉教授)、櫻井秀雄(獨協医科大学)、本郷一美(総合研究大学院大学)の各氏に出土骨の種類、部位、被熱の有無等の鑑定を行っていただいた。

その結果、茂原氏によれば、出土した人骨には、渡来系弥生人の特徴がうかがえる歯が含まれているという。塩崎遺跡群の弥生人の系譜を探る上で重要である。また、墓からの出土人骨は、歯が揃っている顎骨が出土している例が多いこと、溝跡からは動物骨が多いことや竪穴住居跡からは焼骨、人の歯の出土がみられるものの出土量は少ないという傾向がわかってきている。

整理を通じて

当該期の地域間の結びつきや当時の地域社会の構造の実態に迫れる可能性を含む資料が、多くあることが判明した。(近藤尚義)

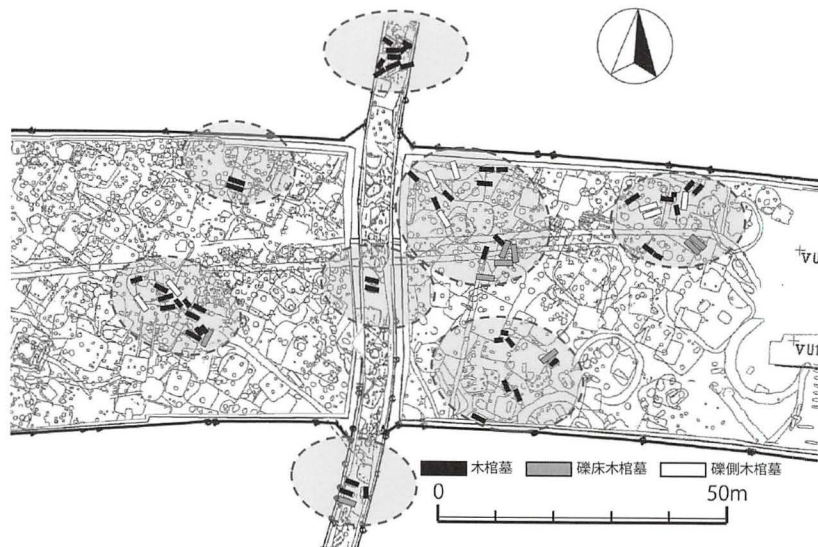


図 51 木棺墓分布

(3) 浅川扇状地遺跡群

(都市計画道路高田若槻線関連)

整理対象の概要

浅川扇状地遺跡群は平成 23 年度から発掘調査を実施している。27 年度までに検出した遺構と、今年度 4 区北側の鐘鋤川水路付け替え工事立会いで確認した遺構を含めた、現在までに検出された遺構は下表のとおりである。

時期 \ 遺構	竪穴建物跡	掘立柱建物跡	墓	溝跡	土坑
弥生時代後期	24	0	1	1	32
古墳時代	39	0	5	16	126
奈良・平安時代	143	1	1	30	720
中世以降	0	4	6	28	473
合計	206	5	13	75	1351

今年度は、23～27 年度に発掘調査の終了している部分について本格整理作業を行った。遺構記録についての主な作業は、個別遺構図のデジタルトレス・編集・版組、遺構の計測および一覧表作成、遺構写真の選別・編集・版組、事実記載原稿作成などを行った。遺物についての主な作業は、弥生から古墳時代の土器の観察・選別・実測・一覧表作成などを行った。以下に、今年度整理作業により分かってきた、弥生時代後期から古墳時代の集落の変遷について概要を記す。

弥生時代後期から古墳時代の集落跡

調査地内で最初の集落は弥生時代後期中葉で、北側の地区（5・6 区）で確認されている。後期後葉になると、集落は南側の地区（2・3 区）に移動する。また、後葉とした住居跡は新旧 2 時期に分かれると思われ、その新段階あるいは、その直後に 1 区と 5 区の間で確認された墓が造営された可能性が考えられる。

古墳時代は、前期～後期すべての時期の遺構が確認されている。前期の住居跡は 1～5 区と広範囲でみつかっていて、かなり大きな規模の集落が営まれていたと考えられる。しかし、中期・後期の住居跡は、3 区以外ではほとんど確認されておらず、集落の規模は縮小してしまうと考えられる。また、前期には墳墓群が確認されており、居住域と墓域の関係について詳細な時期等の検証を行い、今後報告書作成にあたり、さらに明らかにできればと考えている。（西 香子）

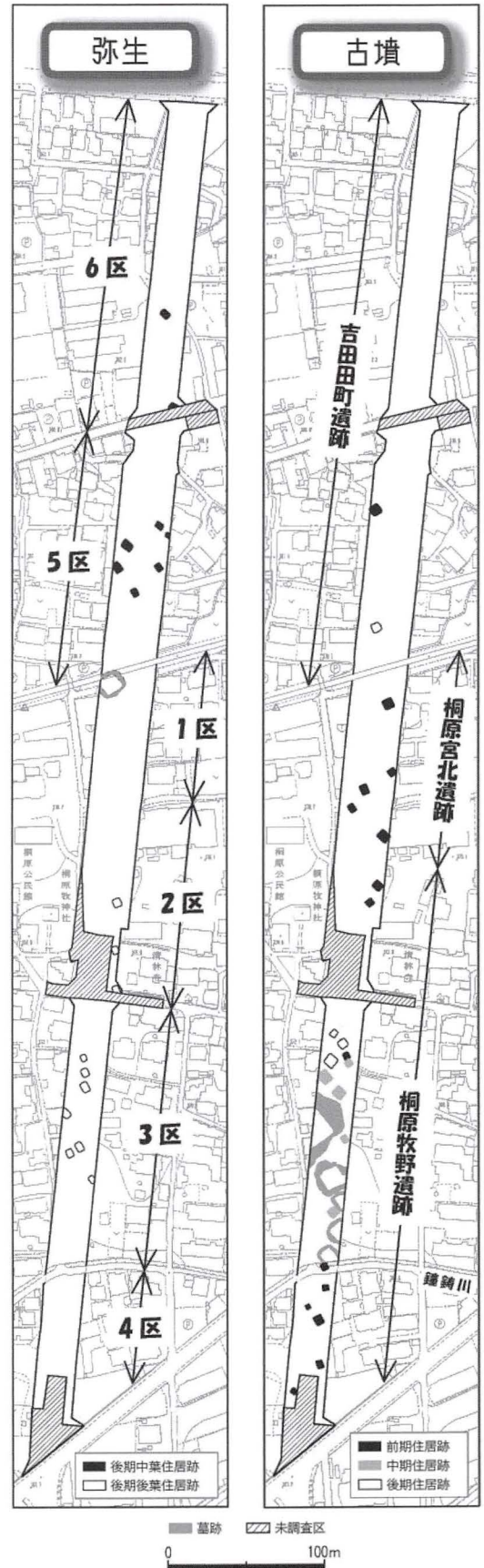


図 52 弥生～古墳時代の主な遺構分布

(4) 浅川扇状地遺跡群本村南沖遺跡

(新県立大学施設整備関連)

整理対象の概要

浅川扇状地遺跡群本村南沖遺跡は、平成27年度に発掘調査を実施し、弥生時代前期の墓跡1基、弥生時代後期の竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、墓跡3基、溝跡1条、土坑4基、遺物集中1ヶ所、古墳時代中期の流路跡1条、奈良～平安時代の流路跡2条、平安時代の竪穴建物跡10軒、掘立柱建物跡1棟、土坑4基、弥生～平安時代の土坑292基が発見された。

今年度は本格整理作業を開始し、遺構図編集、デジタルトレス、遺物選別、遺物実測・トレス、各種計測台帳の作成、原稿執筆、報告書作成を行った。また、金属製品については長野県立歴史館でX線写真撮影と保存処理をし、土器の付着物の分析と遺物写真撮影は業者に委託し実施した。以下、整理作業で得られた所見を記す。

本村南沖遺跡の弥生土器

本村南沖遺跡で出土した弥生土器は、弥生前期併行に位置づけられる氷式土器1個体(SQ02)、遺構外出土の中期栗林式期の土器片、後期箱清水式期の土器棺(SM02.03)・遺物集中(SQ01)を除き、すべてが後期初頭「吉田式土器」(註1)に相当する。吉田式土器をその様相から2段階に区分した。

【成立段階】 吉田式土器成立期の壺形土器は頸部を太い篋描き平行沈線文を中心に用いて埋める。甕形土器は胴部文様に前段階の羽状文を継承するものの、波状文が主体となり他の文様モチーフは消滅する。縄文および「オオバコ」文施文の消滅と櫛描文の主体化が、本段階の特徴である。本村南沖遺跡の今回の調査では、この段階の資料は確認できていない。

【古相段階】 次の段階の特徴は篋状工具を用いた平行沈線や鋸歯文が盛行し、これに櫛状工具による沈線や簾状文の発達である。特



図53 本村南沖遺跡の弥生時代の遺構

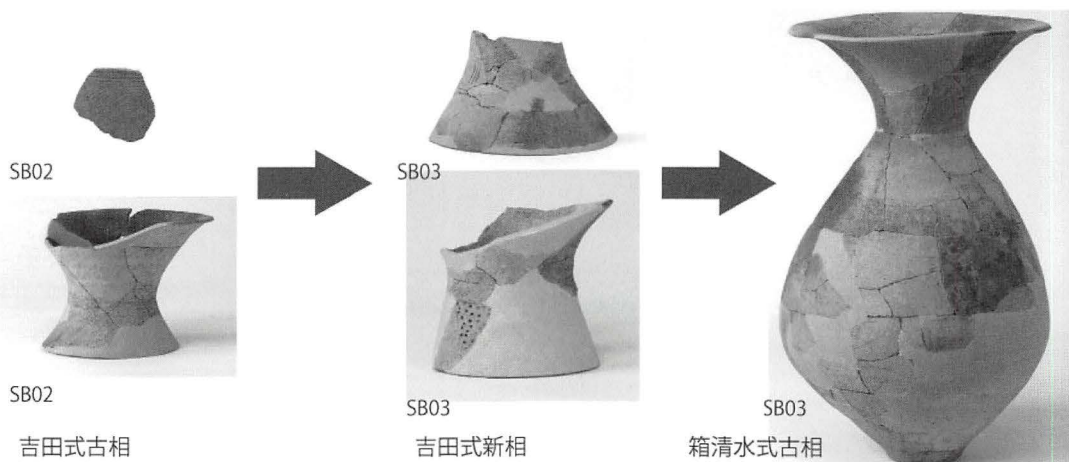


図54 本村南沖遺跡の弥生時代後期土器の変遷

に簾状文は多段化し、節部分が1本の区切り線のように見え、次段階の「T字文B（櫛描きの直線文を篋描き沈線1本または2本対で縦位の区分する手法）」につながる効果が現れる。本村南沖遺跡ではSB02、SB16出土資料がこの段階の様相を示すと考えられるが、資料数がわずかなため、次の新段階の可能性も考えられる。

【新相段階】 本村南沖遺跡の中心となる時期である。本段階の特徴は壺形土器の頸部は櫛描簾状文が主体となり「T字文B」の手法がみられることである。篋描き斜線文や矢羽状文、鋸歯文は本段階までみられる。高坏形土器では鐳縁状口縁が本段階までに消滅し、新たにC類が出現する。本村南沖遺跡では竪穴住居跡SB01、03、09、17出土資料がこの段階の様相を示すと考えられる。なおSB03出土資料中には土器変遷上は次の箱清水古相に位置づけられる壺形土器1点がある（口絵）。

【箱清水式古相段階】 箱清水式土器は「吉田式土器」設定時に笹沢氏によって定義された「T字文C（櫛描きの直線文を櫛描き沈線で縦位に区分する手法）」（註1）の成立をもってする。本村南沖遺跡では土器棺墓SM02、03、遺物集中SQ01出土資料がこの段階の様相を示すと考えられる。なお土器棺として使用される壺形土器1点は次の新相に位置づけられる資料であるが、他の壺形土器の様相から古相としておく。土器棺埋納時期を考えれば、新相の可能性が高い。

浅川扇状地と弥生時代の遺跡の立地

浅川扇状地上に分布する浅川扇状地遺跡群ではこれまで多くの遺跡が調査されてきた。今回扇状地を急傾斜と緩傾斜に区分し、遺跡の集落域は主に急傾斜扇状地に立地することが分かった。また浅川の兩岸の微高地上、急傾斜扇状地の扇端部など水を得やすかつ浅川の氾濫被害を受けにくい場所は、集落を営む上で好まれたのであろう。

報告書刊行

3月に報告書を刊行し、その後調査資料や遺物は長野県立歴史館へ移管される。

（長谷川桂子）

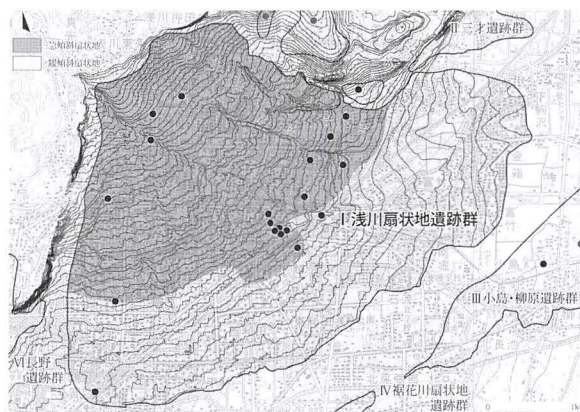


図 55 浅川扇状地遺跡群
弥生時代中期栗林式期の遺跡

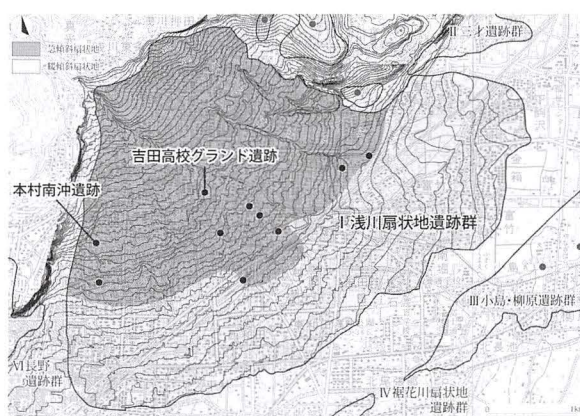


図 56 浅川扇状地遺跡群
弥生時代後期吉田式期の遺跡

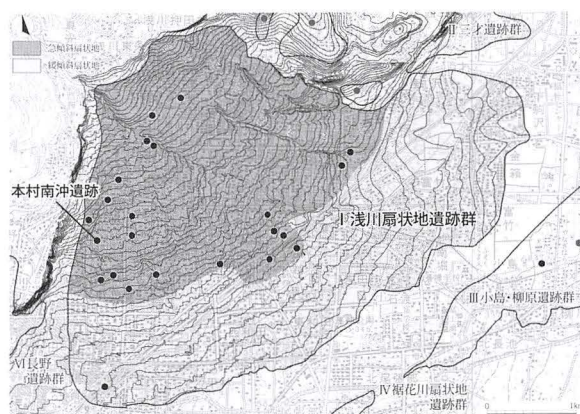


図 57 浅川扇状地遺跡群
弥生時代後期箱清水式期の遺跡

註1：笹沢 浩 1970「箱清水式土器発生に関する一試論」
『信濃』第22巻第11号信濃史学会

(5) 佐久市地家遺跡ほか

(中部横断自動車道関連)

中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点に、山梨県を経由して長野県小諸市に至る総延長約132kmの高速自動車国道である。長野県内における建設事業地内の埋蔵文化財については、平成26年度に佐久・小諸JCT～佐久南IC間の発掘調査報告書の刊行を終えた。

佐久南IC～八千穂高原IC間については、平成27年度に発掘作業が完了し、本年度から体制を整え、本格的に整理作業を進めている。

整理対象遺跡と報告の区分

八千穂高原IC～佐久南IC間には、31箇所遺跡が点在する。これらを以下の5(大字)地区に分け、その区分に従い報告書としてまとめ、刊行する予定である。

- ①桜井・伴野地区(北畑遺跡群、仁東餅遺跡、北裏遺跡群、西東山遺跡、東山遺跡)
- ②小宮山・前山地区(小山の神B遺跡、高尾A遺跡 高尾5号墳、尾垂遺跡 尾垂古墳、洞源遺跡、荒城跡、月明沢岩陰遺跡群)
- ③大沢地区(地家遺跡、兜山遺跡 兜山古墳、大沢屋敷遺跡、前の久保遺跡、三枚平B遺跡)
- ④臼田地区(滝ノ沢遺跡、寺久保遺跡、庚申塚、台ヶ坂遺跡、上滝・中滝・下滝遺跡、和田遺跡 和田1号塚、滝遺跡、家浦遺跡、田島塚、水堀塚)
- ⑤佐久穂地区(奥日影遺跡、小山寺窪遺跡、上野月夜原遺跡、満り久保遺跡、馬越下遺跡)

なお、各発掘調査報告書の刊行予定年度は、③大沢地区と④臼田地区が平成29年度、①桜井・伴野地区、②小宮山・前山地区、⑤佐久穂地区が平成30年度である。

整理対象の概要

本年度は、大沢地区および臼田地区に所在する遺跡を主体に整理作業を実施した。

遺構については、調査所見を整理し、各遺構の概要を把握できるように時期や特徴等の情報を整備した。さらに修正図をもとにデジタルトレースを行い、報告書に掲載する個別遺構図、遺構全体図、土層柱状図、周辺遺跡分布図等を作成した。

遺物については、報告書に掲載する遺物の抽出、土器の接合と復元を行い、土器・石器・金属製品の実測作業を進めた。また、出土骨の鑑定、木製品をはじめとした中世遺物や中世遺構の整理について指導者を招聘した。さらに、地家遺跡、尾垂遺跡 尾垂古墳の金属製品について応急的保存処理を実施した。



図58 中部横断自動車道関連遺跡

地家遺跡の木製品

西から東に流れる、幅5～10mの自然流路跡（NR01）を中心に、13世紀～14世紀前半の中世陶磁器とともに7,000点を超える木製の資料が出土した。本年度は保管水の交換と器種分類を行い、図化資料の選択を実施した。資料の多くは破片で、器種の特定ができないものが多いため、大別分類を行い、可能な資料に対してのみ細別を行った。

寺院・葬送に関係すると考えられる資料として、^{とうぼ}塔婆、^{れんべん}蓮弁装飾、祭祀具として鳥形、組み合わせ式等の人形、男根状木製品、刀形、包丁形等がみられる。



図59 板塔婆 長さ8cm

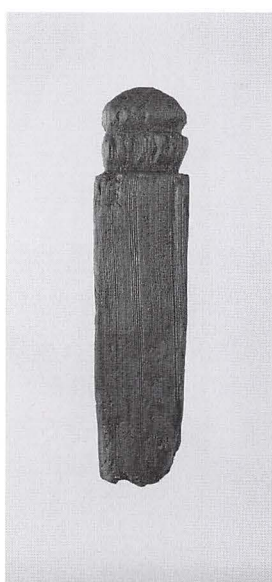


図60 角柱塔婆
長さ27.5cm

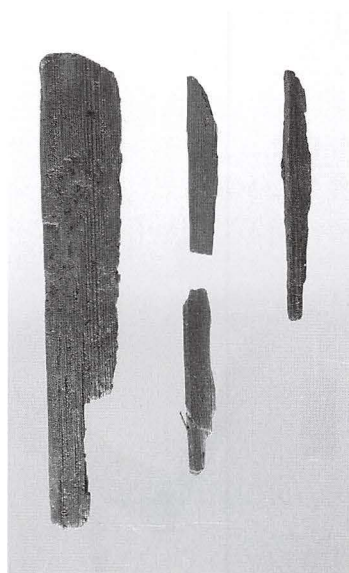


図61 包丁形（左端長さ23cm）
と刀形

祭祀行為を含め日常生活でも使う用具としては定規、櫛、紡織具、漆器、錘、塗り刷毛（白粉・漆用か）、木製印（花菱紋の陰影で染物押形の可能性がある）、箸、下駄、杓、曲物、折敷、杭などがあげられる。

資料全体の約43%は板状に加工された木製品で、5mm以上の厚さをもつ板状木製品、それより薄くかつ表裏面が平滑に加工された木筒状の製品など多様である。これらは塔婆や柿経、荷札など様々な用途の製品の一部である可能性が考えられる。それらの一部には肉眼で文字や黒色の痕跡が確認されたため、必要に応じて赤外線画像強調システムで詳細に観察したところ、現時点で43点に文字もしくは墨痕を確認できた。今後正式な検討と釈文を整えていきたい。



図62 長野県立歴史館での赤外線観察

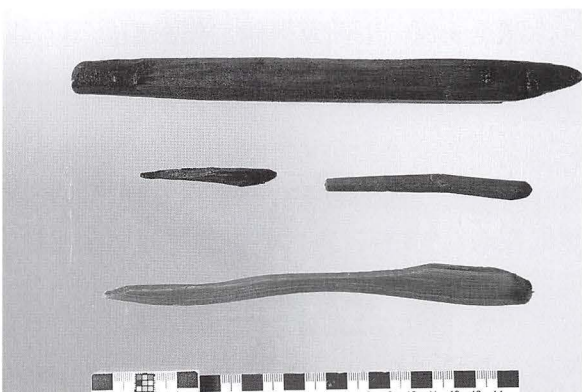


図63 火付木 上長さ23.5cm

また、棒状の材の下端を斜めに切り落とし尖らせたり丸く加工したものが145点を数える。そのうちの大部分は片端もしくは両端が顕著に炭化しているため、火付木と考えられる。祭祀行為との関係も推測されようか。

建築関係の部材としては、須弥壇高欄の斗束（通櫓）の可能性のあるものに加え、建物の柱を直交方向に切断した材も多い。使用時もしくは再利用に伴うものと考えられ、鋸や鉋状の道具の痕跡が確認できる場合もある。建築部材や道具類を製作や転用する際に出る

端材や削り屑などは、木製品全体の17%程度にのぼる。なお、農具はほとんどみられない。



図64 斗束(通桶)
長さ26.5cm

葬祭・法事等に係る宗教色の濃い資料を多く含む木製品の器種構成は、ここに寺院が存在し、宗教活動が行われていたことを示すと考えられる。さらに製品の端材等から、加工職人の存在も示唆されよう。

上滝・中滝・下滝遺跡の古代集落

上滝・中滝・下滝遺跡は、佐久市湯原の滝川左岸の段丘上に所在する遺跡である。平成20年度と22年度に発掘作業を行い、縄文時代前期前葉および中期初頭の竪穴住居跡各1軒、古墳時代前期の竪穴住居跡2軒、古代の竪穴住居跡15軒、古代の掘立柱建物跡1棟、溝跡1条等を検出した。このほか、古代の竪穴住居跡に南北に平行する3×1間の掘立柱建物も想定されることが、整理作業の過程で明らかとなった。

もともと滝川に沿った狭い谷に立地するうえに平成20年度に行った確認調査で滝川沿いの低地部分が氾濫原であることが確認されている。古代の溝(SD01)が低位段丘上を滝川に平行に走り、段丘上に水を引こうとしているが、可耕地はほとんどなく、農業主体の集落であったとは考えにくい。

奈良時代の住居跡や周辺からは、底部に亀裂のある須恵器坏や歪みの著しい須恵器高台付壺がまとまって出土しており、付近で生産した須恵器の選別を行っていたようである。

この集落は平安時代になっても衰えることはなく、竪穴住居跡や周辺で、一定量の灰釉陶器碗や瓶のほか、緑釉陶器香炉まで出土している。このような小規模な集落でどうしてこのようなものが持てたのかは今後の検討課題であるが、須恵器生産を行っていた奈良時代に引き続いて、佐久郡衙と何らかの関係を有していたことも考えられる。



図65 緑釉陶器香炉

金属製品の応急的保存処理

地家遺跡出土金属製品11点(火打金、鉄釘)、尾垂遺跡・尾垂古墳出土金属製品74点(直刀・鉄鏃・鎌・紡錘車・銭貨他)の応急的保存処理(脱塩・樹脂含浸・錆取・接合・補強等)を実施した。保存処理の過程で、それまで不明確であった形態・用途が明らかになった資料や詳細な観察が可能になった資料がある。

地家遺跡出土の火打金は古代の竪穴住居跡の埋土から出土したものである。保存処理前は錆に覆われ、板状の鉄製品としか認識できなかったが、ねじり鎌形火打金であることがわかった。側面形は全体として山形を呈する。基部の両端をねじり延ばして上部中央に曲げ合わせているが、残念ながら、延ばした先端が欠失しているため、頂部での結合形態は不明である。

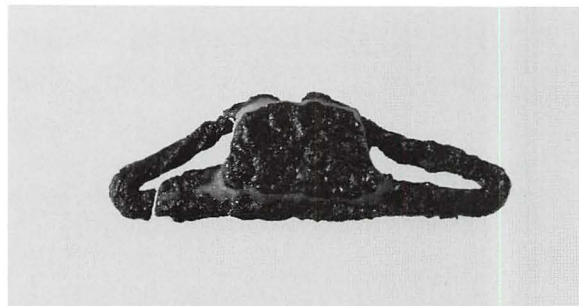


図66 地家遺跡の火打金

尾垂古墳は、昨年度、尾垂遺跡の一角で新たに発見された円墳で、横穴式石室を内部主体とする。玄室床面から直刀や鉄鏃等の副葬品が出土した。金銅製刀装具を伴う直刀は全長56.4cmを測る。刀身は平棟で、^{まち}関は両関と考えられる。茎は刀身に比べて非常に薄い。茎尻付近に目釘穴が1穴穿たれ、鉄製の目釘が残っている。刀装具は足金物一対、^{さやぐちかな}鞘口金具、^く喰出鐔、^{つかぶちかなぐ}柄縁金具があり、いずれも文様は認められない。足金物は、吊手孔部分と^{せめ}責金具部分が一体造りのようで、吊手孔は責金具の真上に位置する。刀装具部分には鞘および柄材の木質が残存している。

鉄鏃は細根式を主体として平根式が少数ある。細根式は両刃・片刃とも確実に鏃身^{しめんだん}関をもつと認定できるものはない。茎^{しめんだん}関は四面段^{とげまち}関の可能性あるもの1点を除いて^{わたくり}棘関である。広根式は鏃身形状が五角形のもの^{わたくり}と長い腸袂をもつ五角形^{わたくり}のものが認められる。茎^{しめんだん}関は直角関である。

尾垂古墳の年代については、現在のところ7世紀後半～8世紀初頭と考えている。今後、直刀・鉄鏃を含めた出土遺物の観察をさらに深め、また石室構造等を検討して、尾垂古墳の築造契機や築造主体にも迫ってゆきたい。
(伊藤友久 水澤教子 上田 真 若林 卓)

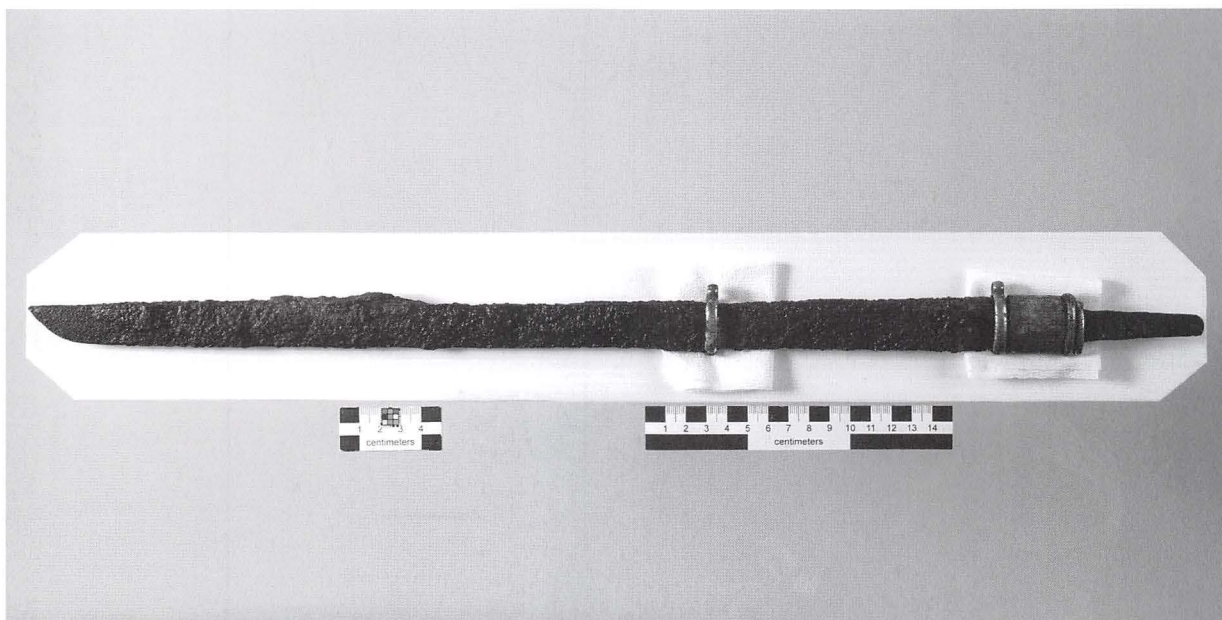


図 67 尾垂古墳の直刀

(6) 矢出川第Ⅷ遺跡

(県営畑地帯総合土地改良関連)

整理対象の概要

平成 25 年度発掘調査を実施した矢出川第Ⅷ遺跡の本格整理を実施した。

作業内容は記録類の照合・選別・編集、石器の器種分類・石材分類・計量・計測・実測・写真撮影・計測表の作成、実測図および写真・計測表の版組、原稿作成、記録類の収納を行い、報告書の印刷・発送を業務委託した。

野辺山高原最古の石器群

出土した石器群について調査時点から始良丹沢火山灰（以下、A T）降灰以前の可能性を指摘してきたが、本格整理に伴いより細かい分析を実施した。

出土層位の主体はⅤ層とした黄褐色のハードローム層の上部から中部であった。この地層の年代を明らかにするために火山灰分析を実施した。明確なピークを見出すことができなかったが、Ⅳ層下部からⅤ層最上位に A T が降灰した可能性が指摘された。また、ローム層の堆積が薄い野辺山高原において、ハードローム層から出土する石器は少なく、今回の出土層準が相対的に深い地層にあることを確認した。

石器製作技術の分析により、石核調整が行われない石刃剥離が存在すること、石刃は広く残される打面と大きな打痕と打瘤を特徴とすること、ナイフ形石器には A T 降灰以前に特徴的にみられる対向調整がみられることを確認した。また、A T 降灰以前の信濃町大久保南遺跡の I b 石器文化と長和町広畑Ⅱ遺跡 4 層石器群を類例とした。

既存資料の再確認を行い、矢出川第Ⅷ遺跡の過去に採集されたナイフ形石器に、対向調整や広く残された打面を持つ資料が存在することを確認した。また、矢出川第Ⅰ遺跡の C 3 グリッドの石器群の出土層位がハードローム層で深く、A T 降灰以前に特徴的に存在するペン先形ナイフ形石器が含まれていることがわかった。

これらの分析により、今回出土した石器群が

A T 降灰以前であると、改めて位置づけた。

中世の陥し穴の年代

1 基検出された陥し穴は調査時点から、形態的な特徴により中世の可能性が高いとしてきた。その時期を裏付けるために、出土した逆茂木材片 2 点の放射性炭素年代測定、および樹種同定を実施した。その結果、cal AD1433-1446、cal AD1,444-1,465 の年代値（1 σ ）が得られた。2 つの逆茂木材は並列する逆茂木痕にあるため、同時に使用されていた可能性が高い。年代値が 1,400 年代中頃で整合していることから、陥し穴の年代も 1,400 年代中頃であることが明らかとなった。

同一形態の中世の陥し穴は八ヶ岳南麓に分布し、諏訪大社の鹿狩り祭りに関連する可能性が指摘されている（註 1）。これまでの東端は山梨県北杜市清里であったが、今回の陥し穴の発見により、分布域の東側が八ヶ岳東麓に広がることが確認された。（谷 和隆）

註 1 櫻井秀雄 2006 「八ヶ岳南麓の中世陥し穴」

『金沢大学考古学紀要』 28

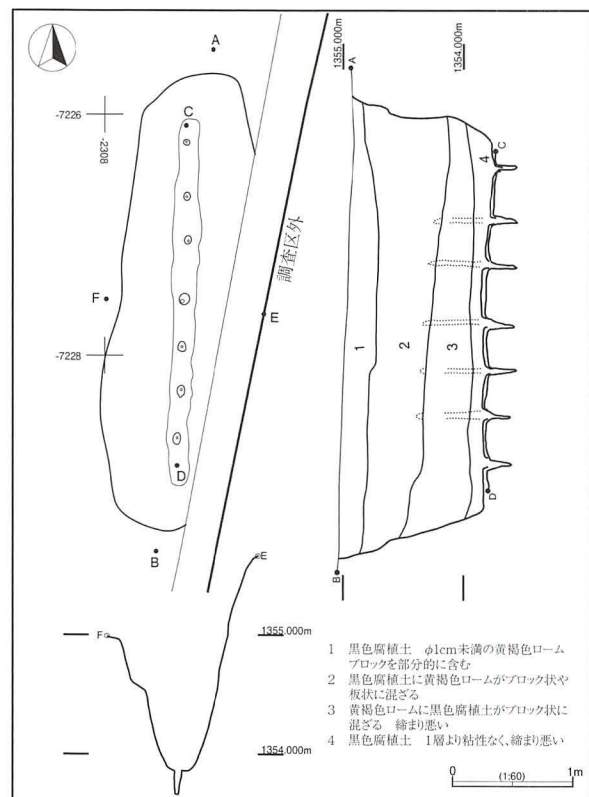


図 68 中世の陥し穴

(7) 龍源寺跡 (国道 256 号関連)

整理対象の概要

平成 27 年度に飯田市上久堅地区に所在する龍源寺跡の発掘調査を実施した。調査対象面積は 1,750m²である。調査の結果、中世、近世、近代以降の遺構・遺物を確認し、本遺跡の近接地で実施した飯喬道路建設関連遺跡（鬼釜遺跡、風張遺跡、神之峯城跡）の発掘調査成果とともに、天竜川左岸の考古学的様相を把握する上で重要な資料が得られた。

整理作業は今年度 4 月から開始し、発掘調査において記録した図面、写真・台帳等を点検・照合して不備を補った。報告書作成に向けた作業では、二次原図作成を中心とした図面整理と遺構図・土層図等のデジタルトレス、土器接合、土器復元、遺物実測・トレス、遺物写真撮影、各種計測台帳、版組の作成を行った。また、長野県立歴史館で金属製品の X 線写真撮影と応急的保存処理、石製品の赤外線写真撮影を行った。以下、整理作業での主な検討結果を記す。

中世の礎石建物跡

龍源寺跡は中世に遺跡が立地する谷状地形内の自然堆積層を削平し、発生土を造成して

平場（平坦面）を造り出している。発掘調査では、平場のほぼ中央で 3 間×3 間の礎石建物跡を確認し、平場は礎石建物跡を構築するために形成したものと判断できる。出土遺物から、平場は 15 世紀中頃には形成されており、礎石建物跡は 16 世紀前半まで存続したと判断している。また、礎石建物跡と鉄釘出土範囲を照合したところ、礎石建物跡とその周辺から多く出土し、L 字状に屈曲するものもあることから、建物もしくはそれに伴う建具等に打ち付けられた鉄釘と推測できる。

さらに、この礎石建物跡とそれに隣接する中世遺構は、時期的に 2 段階にわかれることが推定できた（図 69）。

①第 1 段階（15 世紀中頃～16 世紀前半）

平場形成後、南西面中央に出入口が推定できる方三間の礎石建物跡を構築する。建物の存続期間には、建物の周囲をコ字状に囲む柵列が構築される。

②第 2 段階（16 世紀中頃）

礎石建物跡の礎石埋没後、建物の南西面に平行して溝が掘削される。溝の礎石建物跡側には面をそろえた石列（護岸石か）を配置する。礎石と出入口施設が敷設されていることから、礎石建物は建て替えが行われたと推測できる。

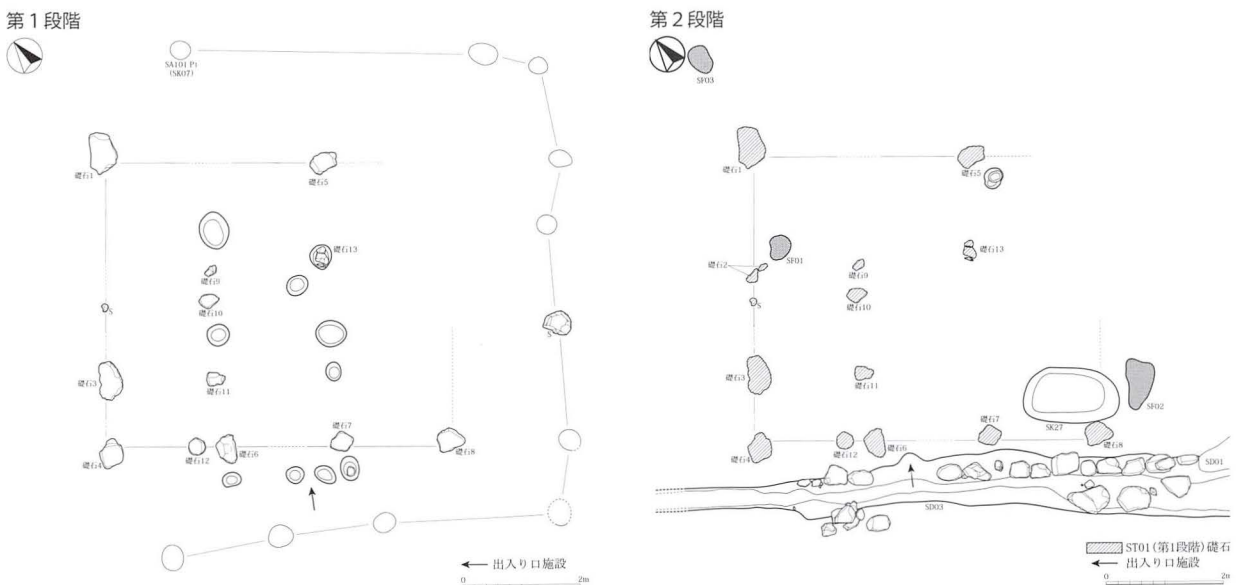


図 69 礎石建物跡とその周辺の変遷図

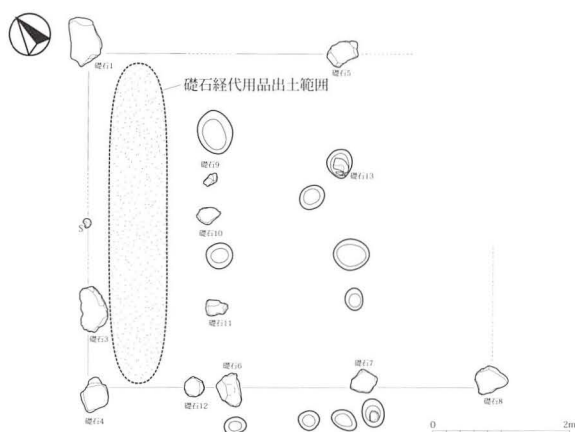


図 70 礫石経の代用品 出土範囲

礫石経の代用品

礎石建物跡の礎石検出時に河原石が45点出土した。この礫は、造成後に平場上面を敲き締めた土から出土しており、分布域は礎石建物跡（内側）の北西面に限られていた（図70）。建物跡のなかでも、眼下を流れる玉川や上久堅地区の集落を臨める方向から出土している。

この礫は、長さ3～7cm、幅2～6cm、厚さ1～1.5cmにまとまる。原山智氏(信州大学)の鑑定により、礫の石材は砂岩と細粒砂岩が大半で、遺跡が立地する谷状地形内の自然堆積層からは産出されない石材であることがわ

かった。他の場所からの搬入品と考えられる。

礫の肉眼観察と赤外線写真では、文字等を墨書した痕跡は確認されない。時枝務氏（立正大学）の調査指導では、経典を書写した礫石経と書写しない礫とが混合して形成した礫石経塚の事例は多く確認されており、両者を供養することで後者も礫石経の役割を担ったと認識できることから、本遺跡出土の礫は礫石経の代用品と捉えることができるとの指摘を受けた。なお、本堂等の下から出土した礫石経は地鎮具と指摘されていることから、礎石建物跡で地鎮行為が行われていたと考えられる。

龍源寺跡で確認した礎石建物跡は、礎石の配置と礫石経の代用品が出土したことから、地鎮を伴う方三間の仏堂と判断できる。龍源寺跡で確認した平場は1箇所、建物跡は上記の礎石建物跡1棟である。このことから、「仏地」のみで構成された遺跡と捉えることができ、仏堂を主体とした平場（仏地）の空間利用と造成の状況がわかった。

今回の発掘・整理の成果は、県内において調査事例が僅少な中世後半の「山寺」の様相を明らかにすることができたものといえよう。（河西克造）



図 71 出土した礫石経の代用品

Ⅳ 普及公開活動の概要

普及公開活動

	分類	名称	場所	期日	参加者数(名)	
①	施設公開	夏休み考古学チャレンジ教室	センター	7/29～30	239	
	現地説明会		石川条里遺跡		7/5～7	151
			ひんご遺跡		8/27	116
			山鳥場遺跡		9/3	118
			小島・柳原遺跡群		9/28	12
			小島・柳原遺跡群		10/19	20
			塩崎遺跡群		11/7	4
			小島・柳原遺跡群		11/12	130
			塩崎遺跡群		11/19	168
			川原遺跡		11/23	77
②	速報展・講演会	長野県の遺跡発掘 2016	県立歴史館	3/12～6/26	11,826	
		長野県の遺跡発掘 2016	県伊那文化会館	7/9～8/21	1,202	
		長野県の遺跡発掘 2016	安曇野市豊科博物館	9/3～10/16	2,577	
		長野県の遺跡発掘 2016	佐久市近代美術館	10/29～11/13	1,033	
		ひんご遺跡講演会	栄村文化会館	5/11	20	
		掘るしん in いいだ	飯田市美術博物館	11/8～27	1,200	
		同講演会(戦国時代)	飯田市美術博物館	11/13	81	
		同講演会(旧石器時代)	飯田市美術博物館	11/26・27	75	
		掘るしん in しののい 2017	センター	H29.2.18～24	199	
		同講演会	JA グリーンプラザ	H29.2.18	110	
		六鈴祭	県短期大学	10/23	-	
		県庁ロビー展	県庁	11/18～25	-	
		掘るしん in まつもと 2016	キッセイ文化ホール	12/1～26	-	
		長野合庁ロビー展	長野合庁	12/5～15	-	
③	出前授業	日本の原始について	長野ビジネス外語カレッジ	5/13	40	
		考古学入門	小島・柳原遺跡群	8/17～19	2	
		土器洗い体験	朝日村立朝日小学校	8/30	38	
		遺跡に親しむ	県若槻養護学校	10/28	15	
		信州社会科教育研究会松本大会	松本市立旭町中学校ほか	11/11～12	297	
	発掘体験	南相木小学校・北相木小学校	塩崎遺跡群	5/20	29	
		栄村立栄小学校	ひんご遺跡	6/22	18	
		モニターツアー	塩崎遺跡群	8/25	19	
		栄村立栄中学校	ひんご遺跡	9/9	6	
		飯田市立下久堅小学校	川原・下川原遺跡	11/2	38	
		長野市立通明小学校	塩崎遺跡群	11/4	33	
		長野市立塩崎小学校	塩崎遺跡群	11/21	43	
	職場体験	長野市立広徳中学校	センター、塩崎遺跡群	5/31～6/1	3	
		長野市立篠ノ井西中学校	センター、塩崎遺跡群	7/5～6	5	
		長野市立三陽中学校	センター、小島・柳原遺跡群	7/5～7	5	
		長野市立川中島中学校	センター、塩崎遺跡群	7/25～26	4	
		長野市立篠ノ井東中学校	センター、塩崎遺跡群	7/26～27	3	
		国立長野工業高等専門学校	センター、塩崎遺跡群	8/29～9/9	5	
		長野市立犀陵中学校	センター、塩崎遺跡群	10/11～12	5	
		長野市立松代中学校	センター、塩崎遺跡群	10/12～13	5	
県立小諸高校		センター、塩崎遺跡群	10/18	20		
長野市立大岡中学校		センター、塩崎遺跡群	10/28	1		
④	施設利用		展示室		605	
			図書室		62	

総計 20,654

国補対象計 3,697

(1) 国庫補助事業

地域の特徴ある埋蔵文化財補助事業

①施設公開・現地説明会

○夏休み考古学チャレンジ教室

内 容：センターの業務を公開し、文化財保護思想の啓発を図る。

- ・埋蔵文化財に関わる業務の体験と見学
- ・発掘調査に伴う出土品の展示。
- ・体験教室（土器の接合・拓本・実測・編み物体験ほか）

○現地説明会：詳細は次項参照

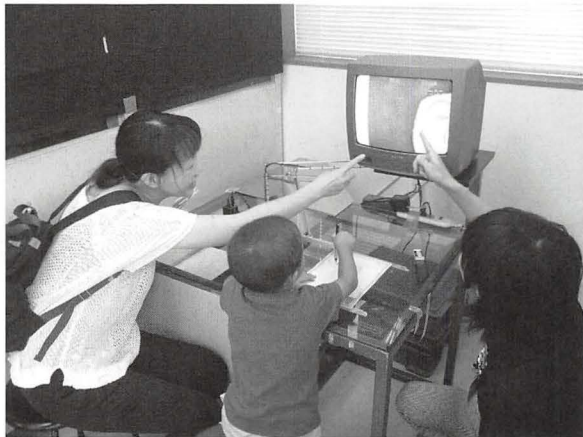


図 72 デジタルトレスに挑戦中



図 73 編み物体験でブレスレットの製作に挑戦

②速報展・講演会

○掘るしん in いいだ

内 容：三遠南信自動車道飯喬道路関連遺跡

- ・発掘調査完了記念展示会を開催。石子原遺跡、竹佐中原遺跡含む全 8 遺跡の出土遺物 132 点とパネル 26 点、飯田国道事務所展示パネル 8 点を展示・公開。

ア 同講演会 「三遠南信の戦国時代」 「飯喬道路関連遺跡の発掘成果」

河西克造（県埋文センター）

「戦国時代の飯田を掘る」

羽生俊郎（飯田市教育委員会）

「三遠南信の戦国時代

一下伊那を中心として」

笹本正治（長野県立歴史館長）

イ 同シンポジウム

「竹佐中原遺跡と旧石器時代研究」

・基調講演（1 日目）

「竹佐中原遺跡の調査概要」

鶴田典昭（県埋文センター）

「竹佐中原遺跡調査の意義」

国武貞克（奈良文化財研究所）

「日本における旧石器時代研究の

現状・近年 10 数年の動向」

小野 昭（東京都立大学名誉教授）



図 74 小野 昭氏の講演

・パネルディスカッション（2 日目）

「これからの日本旧石器時代研究」

パネリスト：国武貞克・大竹憲昭（長野県立歴史館）・羽生俊郎・鶴田典昭

コーディネーター：谷 和隆（県埋文センター）

竹佐中原遺跡の発掘調査がもたらした成果と課題および今後の旧石器研究への展望について、議論がなされた。

○掘るしん in しなのい 2017

内 容：平成 28 年度長野県埋蔵文化財センター発掘・整理遺跡の資料の展示・公開。

縄文特集の栄村ひんご遺跡、朝日村山鳥場遺跡、飯田市川原遺跡を含む全 8 遺跡の出土遺物 110 点

○関連行事：

- ・遺跡調査報告会（午前）
 栄村ひんご遺跡
 谷 和隆（県埋文センター）
 朝日村山鳥場遺跡
 廣田和穂（県埋文センター）
 飯田市川原遺跡
 黒岩 隆（県埋文センター）
- ・講演会（午後）
 基調講演：「信越国境の縄文文化」
 綿田弘実（県埋文センター）
 トークセッション：「信越国境の縄文文化」
 パネリスト：寺崎裕助（新潟県考古学会会長）
 寺内隆夫（長野県立歴史館）
 綿田弘実（県埋文センター）



図 75 トークセッションの様子

③出前授業・発掘体験等

○朝日村立朝日小学校

内 容：「土器洗い体験」と合わせて遺跡の説明を行った。児童の感想では、「山鳥場遺跡の土器（縄文中期）の文様が朝日村だけでなく、中南信地区で共通性があることに驚いた。」等、興味をもって学ぶ姿がみられた。



図 76 土器洗い体験の様子

○県若槻養護学校

内 容：「遺跡に親しむ」（2時間授業）
 ・「発掘調査の様子」、「野尻湖のナウマンゾウ」「土器洗い体験」、「編み物体験」
 ・アングイン編みは、編み具を使い、幅約10cmのタペストリー製作を行う。生徒は、夢中で取り組み、「やりやすくて面白かったです。」といった声が聞かれた。

○長野市立通明小学校

内 容：「発掘体験」（2時間授業）
 重い土を熱心に掘り進めて、土器を探し出していました。



図 77 発掘体験の様子

○信州社会科教育研究会松本大会

内 容：「大会要綱」において、センターの教育普及誌「ジュニアこうこがく」の過去号の案内。および、当日会場にて同誌の配布と授業での活用方法の紹介および今後の発刊内容への意見交換を行った。

④出版物

○埋蔵文化財情報誌「信州の遺跡」

内 容：県内の遺跡情報を掲載し、文化財に親しみ、大切さを考える。

【第9号】平成28年7月19日（火）発行

- ・特集 東日本大震災復興に伴う派遣
- ・最新報告書から（松本市小笠原氏城館群－井川城址－、中野市琵琶島遺跡、中野市南大原遺跡、飯田市鬼釜古墳）
- ・埋文キーワード 保存処理～遺跡出土の鉄製品を後世に伝える～
- ・珍しきもの～番外編 縄文服・縄文仮面の製作～
- ・掘るしん in いいだ

- 【第10号】平成29年2月3日（金）発行
- ・特集 長野県の敷石住居跡
 - ・最新調査成果から（栄村ひんご遺跡、信濃町立が鼻遺跡、飯田市川原遺跡、長野市県町遺跡、伊那市老松場古墳群、長野市小島・柳原遺跡、松本市松本城下町跡本町第8次調査
 - ・珍しきもの
 - ～石製分銅長野市塩崎遺跡群～
 - ・出土品展 掘るしん in しなののい 2017
 - ・考古学の窓～石器の消滅～

○教育普及誌「かがみちゃんと学ぼう
ジュニア こうこがく」

内 容：新しく歴史を学ぶ県内の小学生等を対象に遺跡や遺物を用いた教材。

- 【第5号】平成29年2月10日（金）発行
- ・長野県宝！六角宝幢ってなにか？
 - ・社宮司遺跡周辺の様子
 - ・六角宝幢から見えてくるもの
 - ・六角宝幢は、なぜたてられたの？
 - ・六角宝幢ができたころの出来事
 - ・1052年がその時！救いを求め、極楽浄土へ

⑤体験学習用教材

○柳沢遺跡出土銅戈

3次元データを利用して、鋳型を作成するとともに、成分分析の結果を活かして、素材の差を反映させた体験学習用の原寸大の銅戈を制作した。

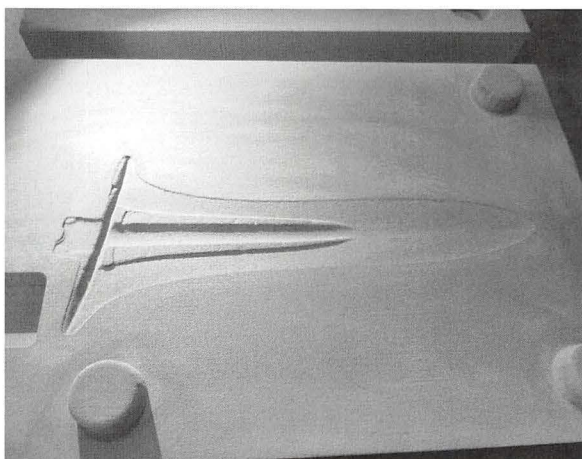


図78 銅戈の鋳型



図79 銅戈の鋳造

(2) 文化財活用活性化実行委員会事業

①体験発掘モニターツアー

遺跡の活用を図るため県教委、県立歴史館等と組織した文化財活用活性化実行委員会事業として、教育旅行のメニューとしての土器洗い・体験発掘・木簡の製作等を盛り込んだモニターツアーを実施した。
(近藤尚義)



図80 体験ツアーの様子（木簡の製作）

※開催場所、期日、参加者数は前項普及啓発活動の概要（一覧表）を参照。

(3) 現地説明会（含遺跡公開）

県教育委員会との共催事業として、6遺跡で9回実施した。参加者は延べ796人であった。以下、そのうち主なものを紹介する。

①石川条里遺跡（長野市）＜遺跡公開＞

開催日：7月5日（火）～7日（木）晴れ、
見学者：151名

地元塩崎地区の皆さんを中心に遺構や出土品の説明と、実際に発掘作業している様子を紹介した。また、中世の遺構などから出土した中国産磁器、珠洲焼、瀬戸焼の3者を取り上げ、その活発な流通の様子を解説した。

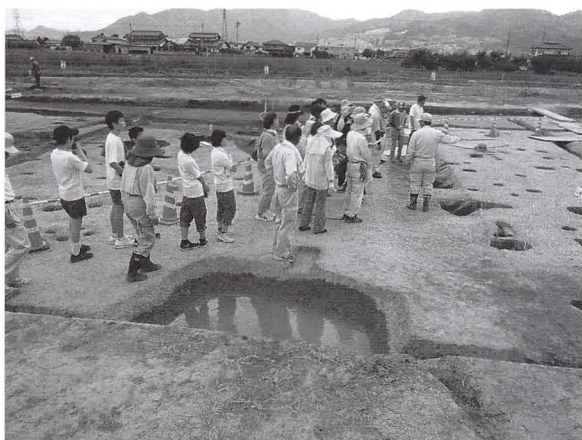


図 81 石川条里遺跡の遺跡公開の様子

②ひんご遺跡（栄村）

開催日：8月27日（土）雨、見学者：116名

あいにくの天気にもかかわらず、信越県境で久々の縄文時代中期～後期の集落跡に多くの見学者が訪れた。敷石住居跡、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、配石墓、フラスコ状貯蔵穴な



図 82 ひんご遺跡の現地説明会の様子

どの遺構、火焰型土器・王冠型土器・大木式土器等の縄文土器、石鏃・石錐・磨製石斧・石皿などの石器、土偶・石棒等が紹介され、多くの質問が飛び交っていた。

③山鳥場遺跡（朝日村）

開催日：9月3日（土）曇り、見学者：118名

縄文時代中期の竪穴住居跡や、出土した唐草文系土器を中心に見学していただいた。土製耳飾りを見て「こんな大きなものを耳にはめていたのか」という驚きの声も聞かれた。希望者には発掘体験や、近隣に所在する熊久保遺跡出土品の展示解説も行い、好評だった。



図 83 山鳥場遺跡の体験発掘の様子

④小島・柳原遺跡群（長野市）

開催日：11月12日（土）晴れ、見学者：130名



図 84 小島・柳原遺跡の現地説明会の様子

晴天に恵まれ、多くの来場者があった。平安時代を中心とする複数の竪穴住居や中世の溝（堀）跡を見学していただいた。特に銅鏡、塔鏡形合子の蓋、五輪塔などの仏教関係の遺

物の出土や、土葬や火葬した墓の跡から、付近に寺院が存在した可能性を説明すると、「地元の歴史とどうかかわるか」など、熱心な質問が相次いで出されていた。

⑤塩崎遺跡群（長野市）

開催日：11月19日（土）雨、見学者：170名
環濠で囲まれた弥生時代後期の竪穴住居跡や溝跡、平安時代の竪穴住居跡、中世の井戸跡等を見学していただいた。また、平成25年度からの調査で出土した資料もプレハブに展示したところ、弥生時代前期末の壺や弥生時代後期の剣や鎌などの鉄製品、ヒスイの剥片などに来場者の関心が集まっていた。



図 85 塩崎遺跡群の現地説明会

⑥川原遺跡（飯田市）

開催日：11月23日（水）晴れ、見学者：77名
天竜川沿いの低位段丘に10軒もの竪穴住居が営まれた縄文遺跡。冷たい風が吹く中、午前中から多くの方が遺跡を訪れた。「天竜川の洪水の砂がどこまで入ってきたのか」、「家がどうつくられ、どう埋まっていたのか」、な



図 86 川原遺跡の現地説明会の様子

どの質問も相次ぎ、身をのり出して住居跡内の土の堆積を見ている方の姿が印象的だった。

(4) 合庁ロビー展等

発掘調査によって出土した資料を県民の皆さんに幅広く紹介するために、本年度は長野合庁と松本合庁でロビー展を開催した。また松本合庁ロビー展に先立ち、「掘るしん in まつもと」と題してキッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）でも展示を行った。

○長野合庁ロビー展

開催日：12月5日（月）～15日（木）
会場：長野県長野合同庁舎1F県民ホール
内容：浅川扇状地遺跡群の調査速報展
桐原地区と三輪地区の土器・石器や石製模造品などを出土状況のパネルとともに展示した。



図 87 長野合庁ロビー展の展示風景

○松本合庁ロビー展

開催日：2017年1月10日（火）～1月19日（木）
会場：松本合同庁舎1階ロビー
内容：山鳥場遺跡・出川南遺跡の調査速報展、松本市出川南遺跡からは古墳時代後期、朝日村山鳥場遺跡からは縄文時代中期の遺物を展示した。山鳥場遺跡から出土した石鎌を見学された方からは「小さなものをよくこんなに精巧に作れるものだ」といった驚きの声が聞かれた。また、「これらの縄文土器は美術的価値を感じさせるほどすばらしい」との感想もいただいた。



図 88 松本合庁ロビー展の展示風景



図 89 キッセイ文化ホールの展示風景

○キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）
掘るしん in まつもと
開催日：12月1日（木）～26日（月）
会場：キッセイ文化ホール大ホール2F ホワイエ特設フリースペース
内容：長野県埋蔵文化財センターで発掘調査を行った山鳥場遺跡・出川南遺跡・海岸寺遺跡のパネルを展示した。

あわせて、松本市教育委員会・朝日村教育委員会で調査を行った5遺跡（朝日村熊久保遺跡、松本城三の丸跡（土居尻第9次）・松本城下町跡・虚空蔵山城跡・岡田田中遺跡）のパネルも展示した。クリスマスコンサートなどに来られた親子など多くの皆さんが立ち寄られ、熱心に見学していた。

○朝日村山鳥場遺跡発掘調査速報展
開催日：2017年1月21日（土）～1月26日（木）
会場：朝日村中央公民館1階待合所
内容：「山鳥場遺跡発掘調査報告会」に合わせて山鳥場遺跡の出土品のうち主な土器や耳飾り、石器などの展示を行った。21日には講演会を行い、遺跡の特徴を紹介した。

以上の移動展示は、実物資料を地元で公開し、長野県埋蔵文化財センターの発掘調査について広く知っていただく良い機会となった。（水澤教子）



図 90 朝日村中央公民館での展示準備状況

V 有識者による鑑定・指導

期 日	所 属	氏 名	内 容
5月26日	(一財)長野県文化振興事業団理事	市澤英利	センターの業務運営について 遺跡調査について
6月29・30日	立正大学文学部教授	時枝 務	龍源寺跡等の調査について
7月11～13日	京都大学名誉教授	茂原信生	塩崎遺跡群の出土骨について
9月8・9日	京都大学名誉教授	茂原信生	地家遺跡の出土骨について
9月21日	信州大学名誉教授	赤羽貞幸	ひんご遺跡周辺の地形形成について
10月14日	埼玉県白岡市教育委員会	杉山和徳	塩崎遺跡群の出土鉄製品について
12月5日	伊那谷自然友の会理事 飯田市上郷考古博物館長	松島信幸 市澤英利	川原・下川原遺跡周辺の地形形成について
12月9日	信州大学理学部教授	原山 智	龍源寺跡の石器・石製品について
12月16日	文化財・生涯学習課 長野県立歴史館考古資料課長	上田典男 大竹憲昭	埋蔵文化財行政及び考古資料の保存活用に関する 現状と課題
12月19～21日	獨協医科大学 総合大学院大学	櫻井秀雄 本郷一美	地家遺跡の出土骨について 塩崎遺跡群の出土骨について
1月23日	長野県埋蔵文化財センター 元調査部長	笹澤 浩	浅川扇状地遺跡群出土土器について
1月26日	信州大学繊維学部教授	石澤広明	小島・柳原遺跡群出土品の付着物分析について
2月17日	新潟県考古学会長	寺崎裕助	ひんご遺跡の縄文土器等について
3月6～7日	京都大学名誉教授 獨協医科大学 総合大学院大学	茂原信生 櫻井秀雄 本郷一美	地家遺跡の出土骨について 塩崎遺跡群の出土骨について
3月13日	立正大学文学部教授	時枝 務	尾垂遺跡出土の鉄製品等について

VI 会議・研修への参加

(1) 会議・委員会等

期 日	場 所	出 席 者	内 容
4月12日	長野県庁	近藤尚義	指導主事・専門主事会議
4月20日	ホクト文化ホール	会津敏男	第1回事業団館(所)長会議 平成28年度主要事業等について他
4月20日	総合教育センター	寺内貴美子	公共開発事業に伴う埋蔵文化財保護に係る 関係者会議
4月27日	長野県立歴史館	会津敏男 竹内 誠 平林 彰 岡村秀雄 町田勝則 川崎 保	四所(県立図書館、県立歴史館、県埋蔵文 化財センター、文化財・生涯学習課)会議
5月10日	長野県庁	会津敏男 川崎 保	第1回文化財活用活性化実行委員会
5月26日	ホクト文化ホール	会津敏男	第1回事業団理事会 平成27年度事業報告・収支決算他
6月16・17日	鹿児島県霧島市ホテル京セラ	竹内 誠 町田勝則 廣瀬昭弘	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会

期 日	場 所	出 席 者	内 容
7月21日	長野県庁	平林 彰 町田勝則 川崎 保 廣田和穂 櫻井秀雄 石丸敦史 柴田洋孝	文化財保護行政市町村担当者会議
7月22日	飯田市下久堅公民館	岡村秀雄 河西克造	天竜川下久堅堤防建設促進期成同盟会総会
7月26日	ホクト文化ホール	会津敏男	第2回事業団館(所)長会議 事業団諸課題検討委の設置について
7月26日	長野県庁	平林 彰	埋蔵文化財保護行政あり方検討会
9月28日	長和町黒耀石体験ミュージアム	平林 彰	黒耀石原産地遺跡関連市町村保存活用連絡 会議
10月13・14日	名古屋市市政資料館	岡村秀雄 望月英夫	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部北陸ブ ロック連絡会
10月20日	ホクト文化ホール	会津敏男	第2回事業団理事会 事業団諸課題検討委について他
10月26日	長野合同庁舎	平林 彰 町田勝則 西 香子	公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 (都)高田若槻線関係
11月9日	小島・柳原遺跡群現場事務所	平林 彰 川崎 保 寺内貴美子	公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 長野東バイパス関係
11月11日	新潟県庁	岡村秀雄	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議
11月17日	朝日村公民館	平林 彰 町田勝則 廣田和穂	公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 (一)御馬越塩尻停線関係
11月22日	柳沢遺跡現場事務所	平林 彰 川崎 保 鶴田典昭	公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 (一)飯山中野線関係
12月7日	塩崎遺跡群現場事務所	平林 彰 川崎 保 櫻井秀雄	公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 坂城更埴バイパス関係
12月12日	松本合同庁舎	平林 彰	公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 (都)出川双葉線関係
12月13日	川原遺跡現場事務所	平林 彰 岡村秀雄 黒岩 隆 藤原直人	公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 天竜川築堤護岸関係
12月13日	信州大学附属図書館	上田 真	信州知の連携フォーラム
12月27日	長野県庁	会津敏男 川崎 保	第2回文化財活用活性化実行委員会
1月6日	長野県庁	近藤尚義	指導主事・専門主事会議
1月10日	飯田市役所	平林 彰	公共事業等に係る埋蔵文化財等の保護協議 リニア新幹線関連事業関係
1月12日	ホクト文化ホール	会津敏男	第3回事業団館(所)長会議 平成29年度の長野県の予算概要
1月12日	ホクト文化ホール	会津敏男	第3回事業団理事会 芸術監督団事業について
3月20日	ホクト文化ホール	会津敏男	第4回事業団理事会 事業団の来年度事業について

(2) 研修会・資料調査等

期 日	場 所	参加者・調査者	内 容
5月16日	当所	全職員	労働安全衛生・交通安全研修
7月25～29日	奈良文化財研究所	柴田洋孝	文化財専門研修 人骨・動物骨調査課程
8月3～5日	文化庁	石丸敦史 柴田洋孝	埋蔵文化財保護行政基礎講座
8月24日	長野市埋蔵文化財センター	西 香子 長谷川桂子 高山いづ美	長野吉田高校グラウンド遺跡出土土器調査
8月29日～ 9月2日	奈良文化財研究所	福井優希	文化財専門研修 地質考古調査課程
9月6～9日	奈良文化財研究所	石丸敦史	文化財専門研修 遺跡情報記録調査課程
9月7～9日	秋田拠点センターアルヴェ	町田勝則	埋蔵文化財担当職員等講習会
9月9日	松本市中央公民館	西 香子 近藤尚義 柴田洋孝 杉木有紗 片山祐介	市町村埋蔵文化財担当者発掘調査技術等研修会
9月29・30日	山形市ホテルメトロポリタン 山形	櫻井秀雄 戸谷良子	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会
10月11～19日	奈良文化財研究所	高山いづ美	文化財専門研修 保存科学Ⅰ（金属製遺物）過程
10月31日	当所	全職員	交通安全研修
11月4・5日	兵庫県立考古博物館	谷 和隆 石丸敦史	古代体験事例報告会・古代体験フェスティバル
11月22日	長野県立歴史館	高山いづ美	考古資料保存処理講習会
11月28日～ 12月8日	奈良文化財研究所	片山祐介	文化財専門研修 文化財写真課程
11月28・29日	愛知県埋蔵文化財調査センター 岐阜県文化財保護センター	西 香子 長谷川桂子 高山いづ美	朝日遺跡、勝川遺跡出土土器調査 今宿遺跡、荒尾南遺跡出土土器調査
12月1・2日	山梨県庁	綿田弘実 廣田和穂	関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研究協議会
12月9・10日	奈良文化財研究所	上田 真	古代官衙・集落研究集会
12月14・15日	奈良文化財研究所 元興寺文化財研究所等	川崎 保 寺内貴美子	塔鏡形合子保存処理指導 塔鏡形合子調査指導
2月16日	奈良文化財研究所	水澤教子	第10回木簡ワークショップ
2月23・24日	博物館等関係職員研修会	水澤教子 福井優希 片山祐介 高山いづ美 飯島公子 杉木有紗	博物館の現在と未来等
3月13～15日	奈良文化財研究所	鶴田典昭	報告書公開活用課程

Ⅶ 関係機関等への協力等

(1) 事業関係機関等への協力

月 日	依 頼 元	担 当 者	内 容
5月11日	栄村教育委員会	町田勝則 綿田弘実 谷 和隆	平成27年度栄村ひんご遺跡の調査成果について講演
5月21日	栄村教育委員会	谷 和隆	栄村ひんご遺跡の発掘調査について講演
6月6日	中野市教育委員会	市川隆之 石丸敦史	中野市柳沢遺跡の試掘調査について指導
6月20～30日	飯山市教育委員会	綿田弘実 谷 和隆	嘱託職員（専門）の発掘作業研修
9月28日・ 10月19日	柳原地区住民自治協議会	寺内貴美子 小林伸子 石丸敦史 柴田洋孝	小島・柳原遺跡群の発掘調査現場見学
10月23日	長野県短期大学六鈴祭実行委員会	長谷川桂子	長野県短期大学構内の発掘調査出土品展
11月7日	長野県観光機構	川崎 保	中国国土資源庁旅行団の遺跡見学
11月22日	篠ノ井地区住民自治協議会	櫻井秀雄 川崎 保	篠ノ井歴史の会の遺跡見学
12月1～26日	キッセイ文化ホール	町田勝則	出川南遺跡、山鳥場遺跡の発掘調査パネル展
12月5～15日	長野建設事務所	西 香子	浅川扇状地遺跡群の発掘調査出土品展
1月10～20日	松本建設事務所	廣田和穂 片山祐介	出川南遺跡、山鳥場遺跡の発掘調査出土品展
1月21日	朝日村公民館	廣田和穂	朝日村山鳥場遺跡の発掘調査について講演
1月21～26日	朝日村公民館	廣田和穂 片山祐介	山鳥場遺跡の発掘調査出土品展
3月7～10日	長野市柳原支所	寺内貴美子 小林伸子 石丸敦史 柴田洋孝	小島柳原地区展示会

(2) 学校関係への協力

期 日	学 校 名	担 当 者	内 容
5月13日	長野ビジネス外語カレッジ	町田勝則 西 香子	出前授業
5月20日	北相木・南相木小学校	川崎 保 市川隆之	発掘体験
5月31日・ 6月1日	長野市立広徳中学校	町田勝則 川崎 保 市川隆之 近藤尚義	職場体験学習
6月22日	栄村立栄小学校	綿田弘実 谷 和隆	発掘体験
7月5・6日	長野市立篠ノ井西中学校	町田勝則 川崎 保 長谷川桂子他	職場体験学習
7月5～7日	長野市立三陽中学校	町田勝則 岡村秀雄 水澤教子 寺内貴美子 他	職場体験学習
7月25・26日	長野市立川中島中学校	平林 彰 町田勝則 川崎 保 河西克造他	職場体験学習
7月26・27日	長野市立篠ノ井東中学校	平林 彰 廣瀬昭弘 伊藤友久 黒岩隆他	職場体験学習
8月17～19日	長野市立長野高等学校	寺内貴美子 小林伸子 石丸敦史	地歴選択事業「考古学入門」

期 日	学 校 名	担 当 者	内 容
8月29日～ 9月9日	国立長野工業高等専門学校	平林 彰 町田勝則 若林 卓 伊藤友久他	インターンシップ
8月30日	朝日村立朝日小学校	廣田和穂 片山祐介	発掘体験
9月9日	栄村立栄中学校	綿田弘実 谷 和隆	発掘体験
9月29日	県立小諸高校	町田勝則	出前授業
10月11・12日	長野市立犀陵中学校	平林 彰 綿田弘実 藤原直人 上田 真他	職場体験学習
10月12日	国立長野工業高等専門学校	町田勝則	就業体験報告会
10月12日	飯田市立下久堅小学校	河西克造	出前授業
10月12・13日	長野市立松代中学校	平林 彰 綿田弘実 藤原直人 上田 真他	職場体験学習
10月18日	県立小諸高校	町田勝則 川崎 保	就業体験
10月25日	中野市立倭小学校	鶴田典昭 石丸敦史	発掘体験
10月28日	長野市立大岡中学校	町田勝則 西 香子 長谷川桂子 市川隆之	職場体験学習
10月28日	若槻養護学校	近藤尚義 長谷川桂子	出前授業
11月4日	長野市立通明小学校	川崎 保 市川隆之他	発掘体験
11月2日	飯田市立下久堅小学校	黒岩 隆 藤原直人 福井優希	遺跡見学 発掘体験
11月21日	長野市立塩崎小学校	川崎 保 市川隆之他	遺跡見学

(3) 講師等の派遣・技術指導

月 日	依 頼 元	担 当 者	内 容
4月30日	塩尻市平出博物館	河西克造	妙義山城現地見学会
5月14日	八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	水澤教子	是川縄文館考古学講座
5月17日	上田市立国分寺資料館	櫻井秀雄	信濃国分寺市民講座
6月3・4日	飯田市教育委員会	市川隆之	飯田城下町遺跡出土陶磁器調査
6月7日	上田市教育委員会	水澤教子	上田市文化財保護審議会委員会
6月20日	中野市立博物館	水澤教子	中野市立博物館協議会
6月25日	長野県退職公務員連盟 北佐久支部	櫻井秀雄	伝統文化講演会
7月11～15日	東北大学文学部	水澤教子	文学部集中講義（前期）
8月3日	愛知県埋蔵文化財センター	綿田弘実	愛知県滝瀬遺跡調査
8月11日	伊那市立高遠町歴史博物館	西 香子	第3回歴博講座
8月24日	須坂市教育委員会	綿田弘実	須坂市文化財審議会委員会
8月25日	小諸市教育委員会	河西克造	小諸市文化財審議会委員会
8月28日	塩尻市片丘地区地域づくり協 議会	河西克造	北熊井城歴史講演会及び現地見学会

月 日	依 頼 元	担 当 者	内 容
9月5日	松本市教育委員会	河西克造	虚空蔵山城跡及び 松本城三の丸跡調査
9月10日	安曇野市豊科郷土博物館	平林 彰	長野県の遺跡発掘2016 記念講演会
9月10日	佐久穂町公民館	河西克造	文化財講座
9月15～18日	中華人民共和国黒河学院 中口辺疆歴史文化と社会発展 研究センター	川崎 保	黒竜江流域文明及びロシア極東の歴史文化 と社会発展フォーラム
10月15日	平出博物館	川崎 保	平出博物館土曜サロン
10月23日	小布施町教育委員会	鶴田典昭	小布施町立歴史民俗資料館講演会
10月24日	安曇野市教育委員会	河西克造	押野城跡調査
11月3日	茅野市尖石縄文考古館	水澤教子	縄文文化大学講座
11月11日	上田女子短期大学	水澤教子	共通教育科目特別講師
11月16日	松本市教育委員会	河西克造	林小城及び松本城三の丸跡調査
12月5～9日	東北大学文学部	水澤教子	文学部集中講義（後期）
1月15日	新潟県津南町	綿田弘実	津南學講座
1月18日	須坂市教育委員会	綿田弘実	須坂市歴史文化講座
2月1日	佐久市教育委員会	市川隆之	藤が丘城跡出土品調査
2月2日	長野市埋蔵文化財センター	町田勝則	新諏訪町遺跡出土品調査
2月13日	小布施町教育委員会	鶴田典昭	小布施町文化財保護審議会
3月4日	山形村教育委員会	平林 彰	歴史講演会
3月11日	長野市柳原地区住民自治協議 会	寺内貴美子	小島・柳原遺跡報告会
3月13日	須坂市教育委員会	綿田弘実	須坂市文化財審議委員会
3月18日	長野県考古学会	鶴田典昭 谷 和隆	長野県考古学会遺跡報告研究会

(4) 資料貸与・閲覧等

月 日	借用・閲覧者	担 当 者	内 容
5月20日	馬場小室山遺跡研究会2名	川崎 保	塩崎遺跡群出土資料閲覧
6月16日	埼玉県白岡市1名	鶴田典昭	南大原遺跡出土資料閲覧
7月12日	越中小杉焼友の会	西 香子	浅川扇状地遺跡群写真貸与
10月14日・ 11月4日	大阪大学大学院生1名	川崎 保	塩崎遺跡群出土資料閲覧
12月2日	埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1名	岡村秀雄	西近津遺跡群出土資料閲覧
11月29日	新潟県津南町教育委員会	綿田弘実	ひんご遺跡写真貸与
12月20日	(株)ジャパン通信情報センター	市川隆之	石川条里遺跡調査速報等提供
2月17日	(株)ジャパン通信情報センター	廣田和穂	山鳥場遺跡調査速報等提供

Ⅷ 組織・事業の概要

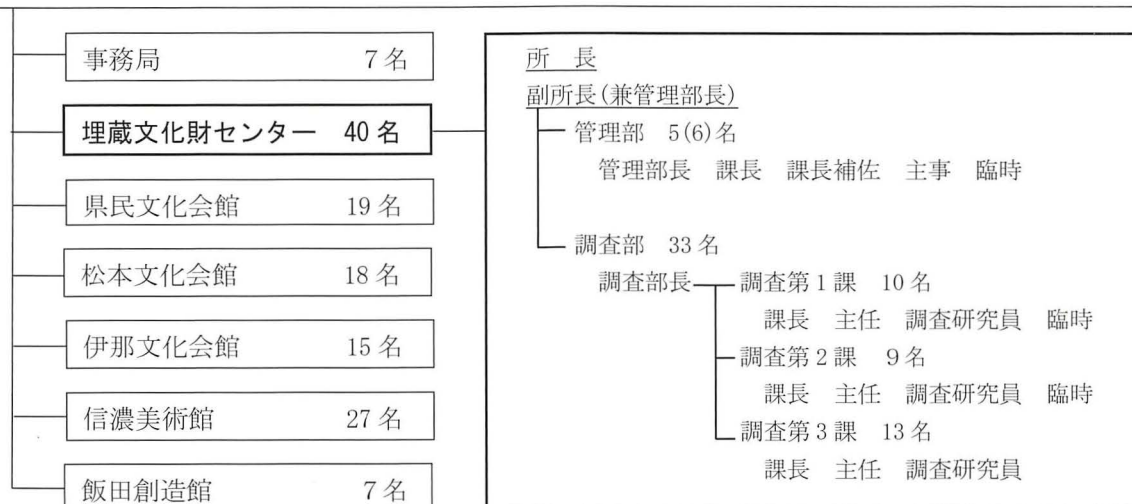
(1) 組織

H29. 3. 1 現在

一般財団法人長野県文化振興事業団

【評議員】 4名 水本一雄 堀内征治 青木 弘 笠原甲一

【理事会】 12名
 理事長：近藤誠一(元文化庁長官) 副理事長：塩澤荘吉(県芸術文化協会会長) 常務理事：松本有司
 理事：松井君子 武井勇二 橋本光明 金澤 茂 市澤英利 出川久雄 宮澤敏夫
 監事：小川直樹 山崎利男



(2) 職員(臨時職員を除く)

H29. 3. 1 現在

	所 長	会津敏男
	副 所 長	竹内 誠
管 理 部	管理部長(兼)	竹内 誠
	管 理 課 長	山本希一
	管理課長補佐	望月英夫
	主 事	戸谷良子 日向 育
調 査 部	調 査 部 長	平林 彰
	調 査 課 長	〔第1課〕 岡村秀雄 〔第2課〕 町田勝則 〔第3課〕 川崎 保
	主任調査研究員	〔第1課〕 河西克造 伊藤友久 若林 卓 藤原直人 水澤教子 〔第2課〕 綿田弘実 西 香子 谷 和隆 〔第3課〕 市川隆之 鶴田典昭 櫻井秀雄
	調 査 研 究 員	〔第1課〕 上田 真 黒岩 隆 福井優希 〔第2課〕 廣田和穂 長谷川桂子 片山祐介 高山いづ美 〔第3課〕 近藤尚義 寺内貴美子 石丸敦史 柴田洋孝 廣瀬昭弘 小林伸子 飯島公子 風間真起子 杉木有紗

(3) 事業

経費は 29.3.1 現在

事業名または箇所名		委託事業者	事業個所	事業内容	経費(千円)	
受託事業	調査	中部横断自動車道建設	佐久市 地家遺跡ほか	整理作業	77,110	
		一般国道18号 (坂城更埴バイパス)改築	国土交通省 関東地方整備局 長野国道事務所	長野市 石川糸里遺跡ほか	発掘作業	272,751
		一般国道18号 (長野東バイパス)改築		長野市 小島・柳原遺跡群	発掘作業	73,644
	整理	天竜川下久堅地区 築堤護岸工事	国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所	飯田市 川原遺跡ほか	発掘作業	39,420
		新県立大学施設整備	長野県(総務部県立大学 設立準備課)	長野市 浅川扇状地遺跡群	整理作業 報告書刊行	24,000
		(一)箕作飯山線 栄村箕作～野沢温泉村明石	長野県 北信建設事務所	栄村 ひんご遺跡	発掘作業 整理作業	39,560
		(一)中野飯山線 中野市 柳沢その1		中野市 柳沢遺跡	発掘作業	12,916
		(都)高田若槻線 長野市 桐原～吉田(8)	長野県 長野建設事務所	長野市 浅川扇状地遺跡群	整理作業	43,260
		県営中山間総合整備 信州高山地区	長野県 長野地方事務所	高山村 二ツ石前遺跡ほか	発掘作業 整理作業 報告書刊行	14,396
		県営畑地帯総合土地改良 南牧地区	長野県 佐久地方事務所	南牧村 矢出川遺跡群	整理作業 報告書刊行	9,200
		(都)出川双葉線 松本市出川	長野県 松本建設事務所	松本市 出川南遺跡	発掘作業	12,900
		(一)御馬越塩尻(停)線 朝日村 中組		朝日村 山鳥場遺跡	発掘作業	24,127
		(国)256号 飯田市 上久堅拡幅(1)	長野県 飯田建設事務所	飯田市 龍源寺跡	整理作業 報告書刊行	20,098
	調査 研修 研究員 等	長野県教育委員会	奈良文化財研究所	専門研修		
自主事業	普及啓発等	7月 夏休み考古学チャレンジ教室 11月 掘るしん in いいだ 2月 掘るしん in しののい 随時 遺跡の現地説明会 広報誌刊行「信州の遺跡」9・10号 「ジュニアこうこがく」5号 ホームページ公開			2,250	

長野県埋蔵文化財センター年報 33 2016

発行日 平成 29 年 3 月 24 日
編集発行 (一財) 長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒 388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
電話 : 026-293-5926 FAX:026-293-8157
E-mail : info@naganomaibun.or.jp
印刷 三和印刷株式会社

